

熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン

— 居心地のいい歩いて楽しめるまちなか未来図 —

令和7年（2025年）3月

熊本市

目 次

1 章 ビジョンの概要	3
1 ビジョン策定の趣旨	4
2 ウォーカブルなまちとは	6
3 ビジョンの対象区域	8
4 ビジョンの位置づけ	9
2 章 現状と課題	10
1 歩行・滞在環境	11
2 中心市街地の活力	15
3 交通	20
4 ウォーカブルなまちづくりの推進に係る課題	22
3 章 ビジョンの方針	23
1 対応の方向性	24
2 目指すウォーカブルなまちの姿	25
3 地区ごとのウォーカブルなまちのイメージ	28
4 回遊ルート及び重点エリアの設定	30
5 実現までのストーリー	32
4 章 実現に向けた施策展開イメージ	35
1 つくる／安心して快適に過ごせるまちなか	36
2 つかう／多様な過ごし方ができるまちなか	39
3 つなぐ／快適に移動できるまちなか	43
5 章 実現に向けて	47
1 実施計画	48
2 推進体制	49
3 中心市街地以外への展開	51
参考資料	53

1 章 ビジヨンの概要

- 1 ビジョン策定の趣旨
- 2 ウォーカブルなまちとは
- 3 ビジョンの対象区域
- 4 ビジョンの位置づけ

1 ビジョン策定の趣旨

世界中の多くの都市において、「まちなか」を車中心から人中心の空間へと再構築し、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場へと転換していく取組が進められています。これらの取組は都市に活力を生み出し、持続可能かつ高い国際競争力の実現につながっています。

【自動車の空間を人の空間に再編（フランス）】



現在、歩行者専用となっている中心部の広場空間。以前は車が入れた。

出典：
まちづくり海外先進地視察報告書
(熊本市HP)

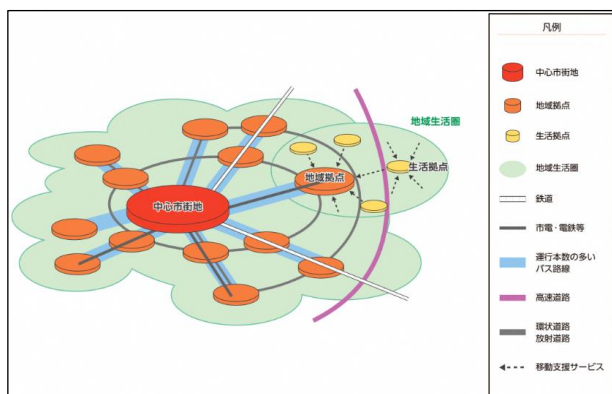
一方、わが国においては、人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化などによる地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出することが、多くの都市に共通して求められています。

このため国土交通省では、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組をさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成することにより、内外の多様な人材・関係人口の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現する都市を構築していくべきとの提言を受け、法律・予算・税制のパッケージによる支援を行うことで、魅力的なまちづくりを推進しています。

本市では、今後の人口減少、超高齢社会の進行を見据え、都市の骨格を形成する中心市街地及び地域拠点に、市民が日常生活を営む上で欠かせない都市機能等を維持・確保し、これらを利便性の高い公共交通で結んだ「多核連携都市」を都市構造の将来像として掲げています。

特に『中心市街地』は、熊本の象徴である熊本城を有し、商業・業務機能等が多数立地する『熊本の顔』であり、熊本都市圏全体の経済成長をけん引する重要な拠点です。活力の低下等他都市と同様の問題を抱える中、魅力と活力のある中心市街地の形成に向けて、人中心の「昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち」の実現を目指し、ウォーカブルなまちづくりに取り組んでいます。

【多核連携都市のイメージ】



出典：熊本市第8次
総合計画

本市は、令和元年に国土交通省が募集した、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、国内外の先進事例などの情報共有や、政策づくりに向けた国と地方とのプラットフォームに参加し、ウォーカブルなまちづくりを共に推進する「ウォーカブル推進都市」となり、花畑広場整備などウォーカブルなまちづくりの核となる都市基盤整備を中心に取り組んできました。

今後、ウォーカブルなまちづくりを更に推進していくには、ハード・ソフトを含め、交通・経済・観光・文化・環境等を含む多分野にまたがる様々な取組を面的に広げていく必要があります。中長期的な視点で目指すまちの姿と方向性を示したビジョンを共有しながら、市民の皆様の興味関心を高め、官民連携してウォーカブルなまちづくりを進めるため、「熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン」を策定します。

2 ウォーカブルなまちとは

ウォーカブル（Walkable）とは、「歩ける・歩きやすい」という意味がありますが、まちづくりにおいては「まちに出かけたくなる」「歩きたくなる」といった意味を持たせています。国土交通省は、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのキーワードとして、「WE DO」（Walkable, Eyelevel, Diversity, Open）を掲げており、関連する予算、税制支援措置、検討会、事例集等を「まちなかウォーカブル推進プログラム」としてとりまとめ、ウォーカブルなまちづくりを推進しています。

【「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのキーワード】

ウォーカブル
Walkable
歩きたくなる

居心地が良い人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

アイレベル
Eye level
まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えたと、人は歩いて楽しくなる。

ダイバーシティ
Diversity
多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

オープン
Open
開かれた空間が心地良い

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

出典：「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出に向けた道路空間利活用に関するガイドライン

【「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのための取組の例】



出典：まちなかウォーカブル推進事業について（国土交通省）

【ウォーカブルなまちづくりによる効果の事例】

1 兵庫県姫路市(大手前通り)

車道中心だった駅前とそれに続く大手前通りの一部について、トランジットモール化を実施した結果、1年で1㎡あたり25%地価が上昇、駅周辺の商業床面積の増加が見られます。



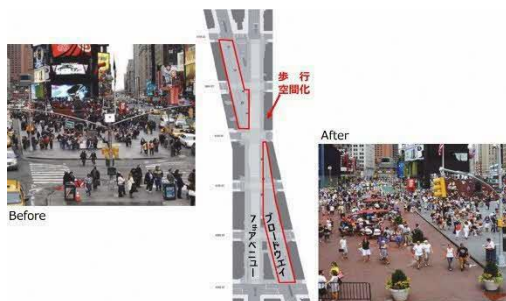
2 愛媛県松山市(花園町通り)

片側3車線あった道路を片側1車線に減らし、歩行空間を拡大するとともに、沿道と統一的なデザイン整備を行うことで、街路空間を「居心地がよく歩きたくなる」ウォーカブルな空間へと再構築。地価の回復や歩行者数が2倍に増加といった変化が起こりました。



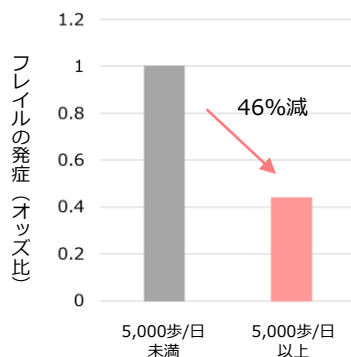
3 アメリカ・ニューヨーク(タイムズスクエア)

半年間の社会実験を経てブロードウェイを恒久的な歩行者空間化した結果、歩行者は35%増、歩行負傷者数は35%減、CO2は40%減と、人と環境にやさしい持続可能なまちを実現しています。



4 健康増進効果や医療費抑制効果

1日5,000歩以上の歩行がフレイル（健康な状態と要介護状態の間の段階で、心身の様々な機能が低下した状態）の発症リスクの低下が確認されているほか、国は既往の研究・報告等をもとに、1日1歩あたりの医療費抑制効果を0.065～0.072円と整理しています。



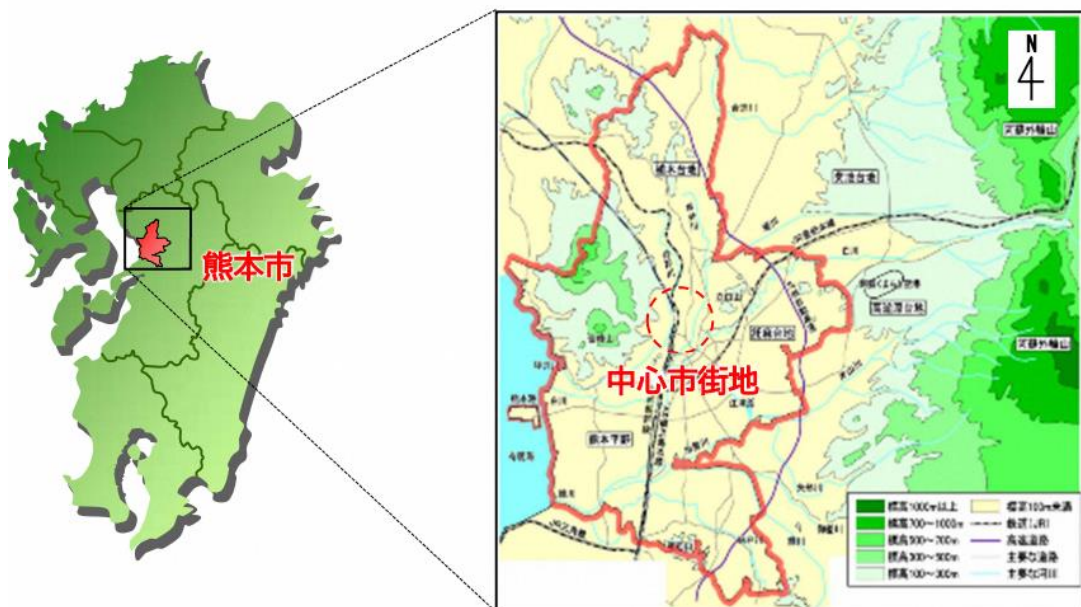
出典：1 2 3 ウォーカブルなまちづくり（国土交通省）、4 活動的に過ごしてフレイル予防（国立長寿医療研究センター）、4 まちづくりにおける健康増進効果を把握するための歩行量（歩数）調査のガイドライン（国土交通省）

3 ビジョンの対象区域

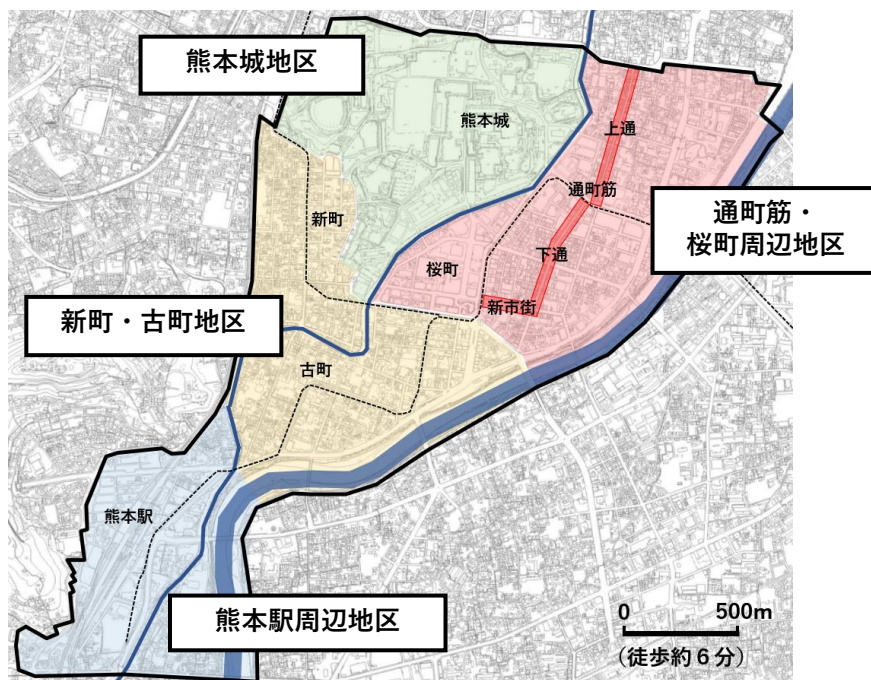
本ビジョンの対象区域は、中心市街地活性化基本計画に定める中心市街地の区域約415haとします。

中心市街地は、商業・業務等都市機能が集積している「通町筋・桜町周辺地区」、本市の陸の玄関口として整備を進めてきた熊本駅及びその周辺を含む「熊本駅周辺地区」、それらの地区を結ぶ役割を果たし、城下町としての町割りや資源のある「新町・古町地区」、「くまもとらしさ」の象徴である熊本城や多数の歴史・文化施設のある「熊本城地区」の4つの地区からなります。

【熊本市中心市街地の位置】



【中心市街地の4つの地区】



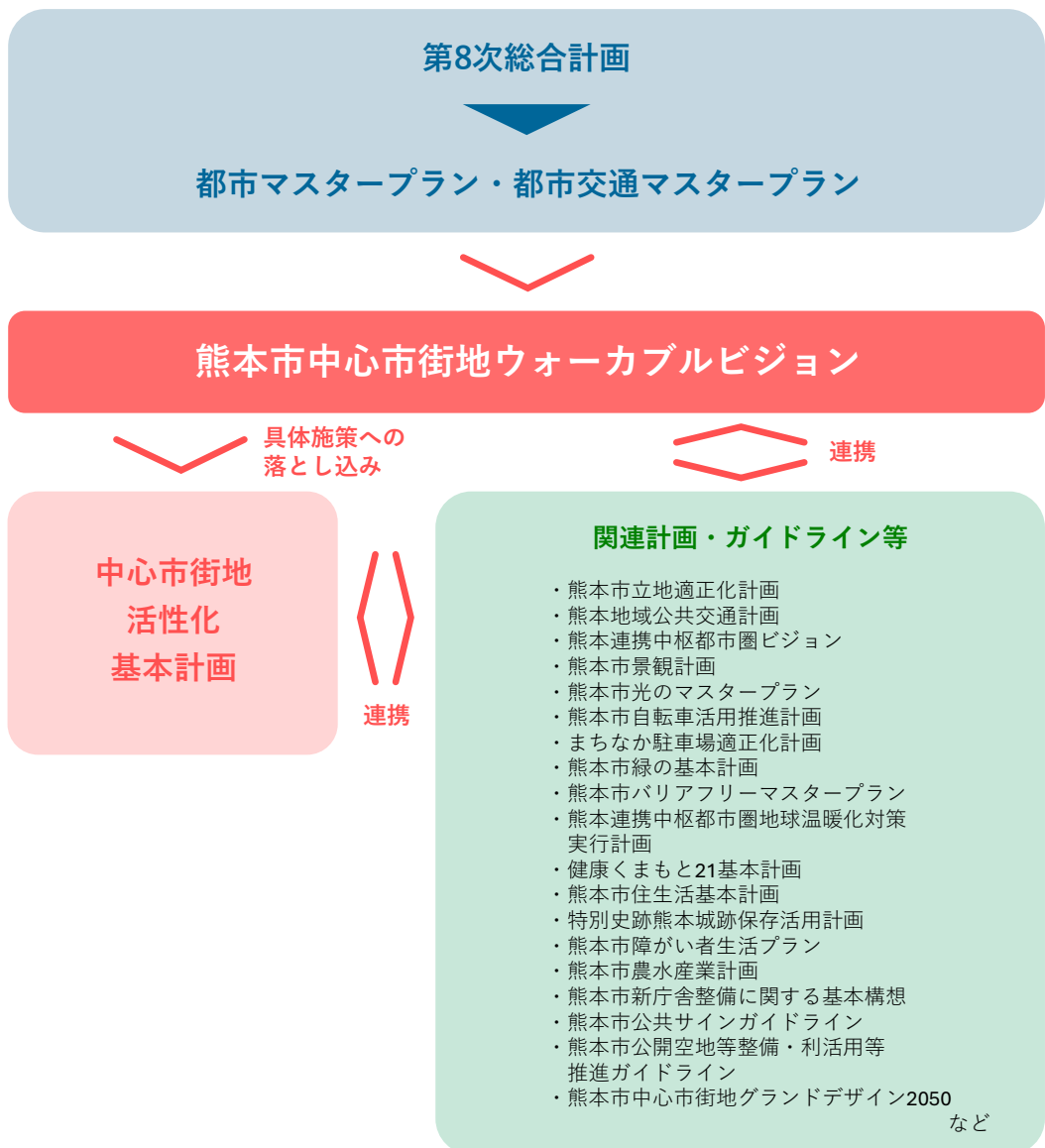
4 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、熊本市第8次総合計画において掲げる、魅力と活力のある中心市街地の形成に向け、中長期的な視点で人中心のウォーカブルなまちを実現していくための、目指すまちの姿と対応の方向性を示すものです。

総合計画や都市マスタープランといった上位計画を踏まえ策定するもので、ウォーカブルなまちづくりの推進には、官民連携して分野横断的に取り組む必要があることから、中心市街地を対象とする各分野の計画等と連携を図ります。

また、中心市街地活性化基本計画を実施計画と位置付け、これに掲げる各種事業を推進します。

【本ビジョンの位置づけ】



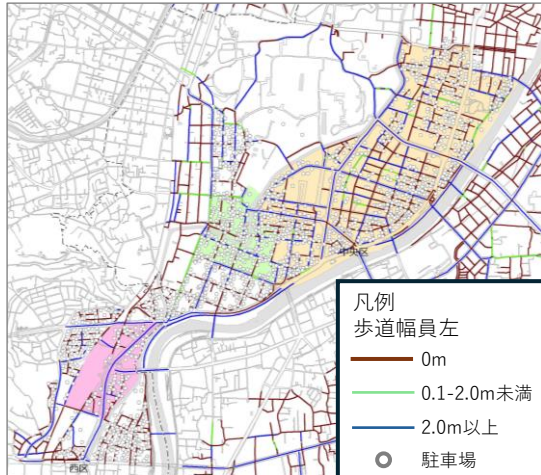
2 章 現状と課題

- 1 歩行・滞在環境
- 2 中心市街地の活力
- 3 交通
- 4 ウォーカブルなまちづくりの推進に係る課題

1 歩行・滞在環境

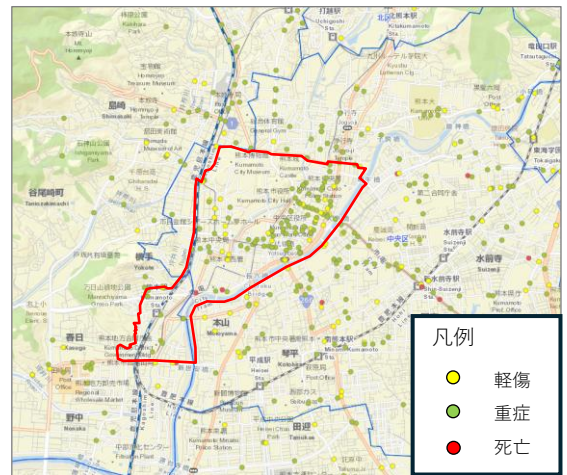
- ・ 中心市街地では、歩道がない又は狭い道路が多数あります。また、駐車場が無秩序に設置されており、自動車が中心部まで流入することで、歩行環境悪化の一因となっています。
- ・ 中心市街地では、周辺と比較して人対車の事故が多く発生しています。

【歩道設置状況及び駐車場の分布状況】



出典：熊本市道路台帳（熊本市）※左側幅員を図示

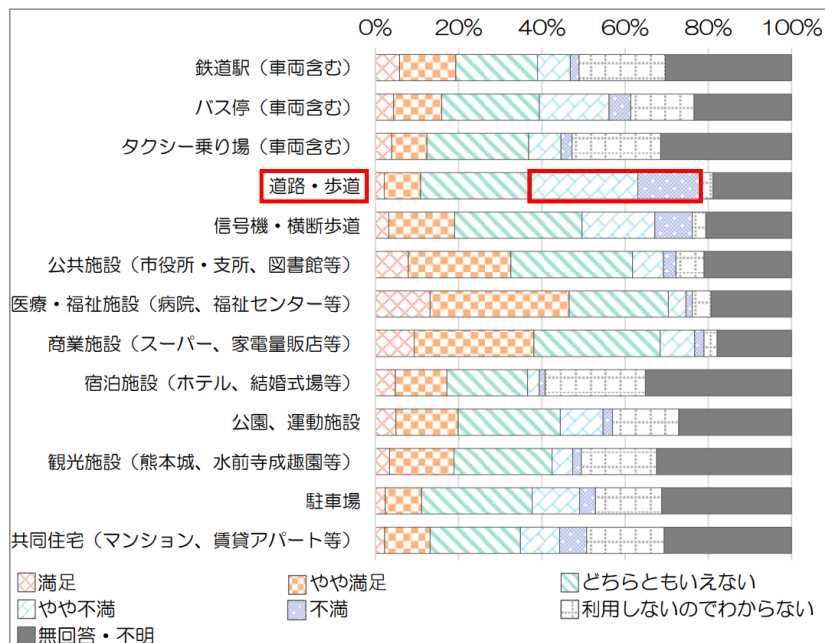
【交通事故発生状況マップ（人対車）】



出典：交通事故発生状況マップ【人対車】（熊本県警察）
Esri Japan, Esri, HERE, Garmin, INCREMENT P, NG, USGS

- ・ バリアフリーマスタープラン策定に係る意向調査によると道路・歩道の「やや不満・不満」の割合が「満足・やや満足」の割合を上回っており、道路・歩道に対する満足度が低い状況です。

【それぞれの施設を利用する際の満足度（n=709）】



出典：熊本市バリアフリーマスタープラン（熊本市）

- 令和5年度策定の「熊本市バリアフリーマスタープラン」の検討において、まちあるきワークショップを実施したところ、中心市街地については道の段差や狭さにより移動しにくいという意見が寄せられました。

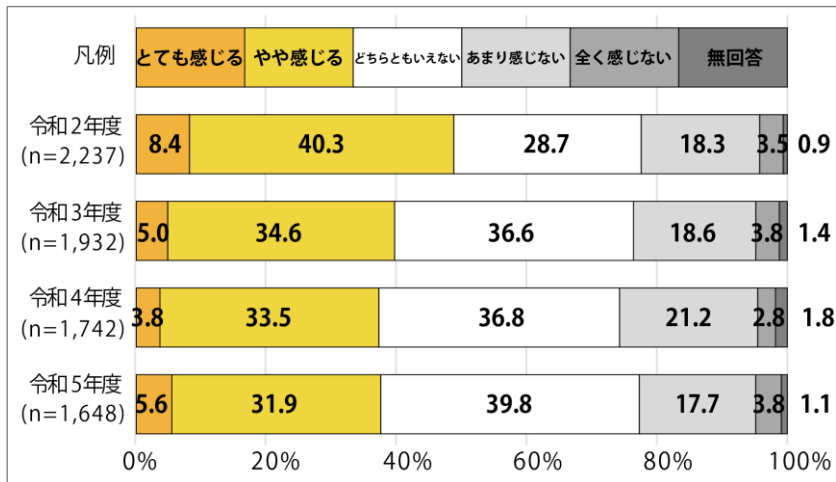
【まちあるきワークショップの結果・主な回答（中心市街地）】



分 類	意 見
道路の維持管理が不十分	・木の根で歩道が盛り上がっている ・歩道上に看板や自動車、バイクがある ・舗装が劣化しており凸凹している
バリアフリーに非対応	・視覚障害者誘導用ブロックがない ・歩道の幅が狭い ・横断勾配や歩道の勾配、段差が大きい（車椅子等では不安がある） ・歩車道境界の段差が大きい（3～4cm） ・歩道がなく、路側帯に電柱がある ・マンホールの段差が大きい

- 令和5年度に実施した市民意向調査によると、「中心市街地が安全で快適に歩行し滞在できるか」について、「とても感じる・やや感じる」とする割合は約4割にとどまり、年々減少傾向にあります。

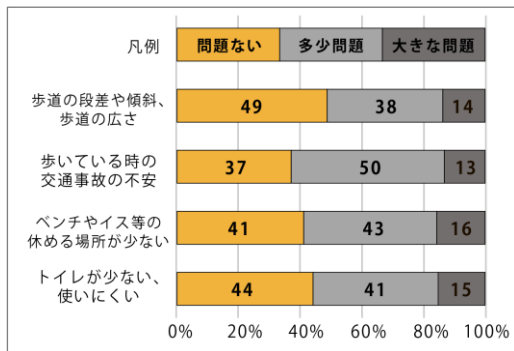
【中心市街地が安全で快適に歩行し滞在できると感じる市民の割合】



出典：第7次総合計画に関する市民アンケート調査（熊本市）

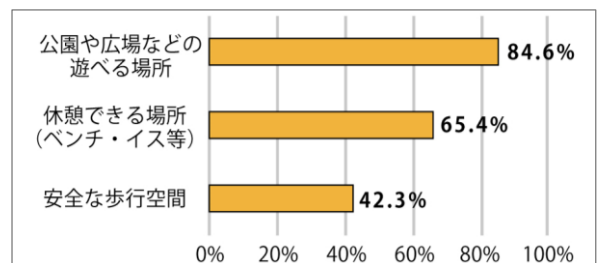
- パーソントリップ調査※においても、高齢者が外出時に抱える不安として、「歩いている時の交通事故（13%）」、「歩道の段差や傾斜、歩道の広さ（14%）」など、移動の安全性に関するものが挙げられています。
- 子育て世代を対象とした意向調査によると、まちなかに欲しいものとして「公園や広場などの遊べる場所（84.6%）」や、「休憩できる場所（65.4%）」などが求められています。

【高齢者が外出時に抱える不安】



出典：第4回熊本市圏パーソントリップ調査結果
(熊本市圏総合交通計画協議会)

【こどもとまちなかを訪れる際に欲しいもの（n=26）】

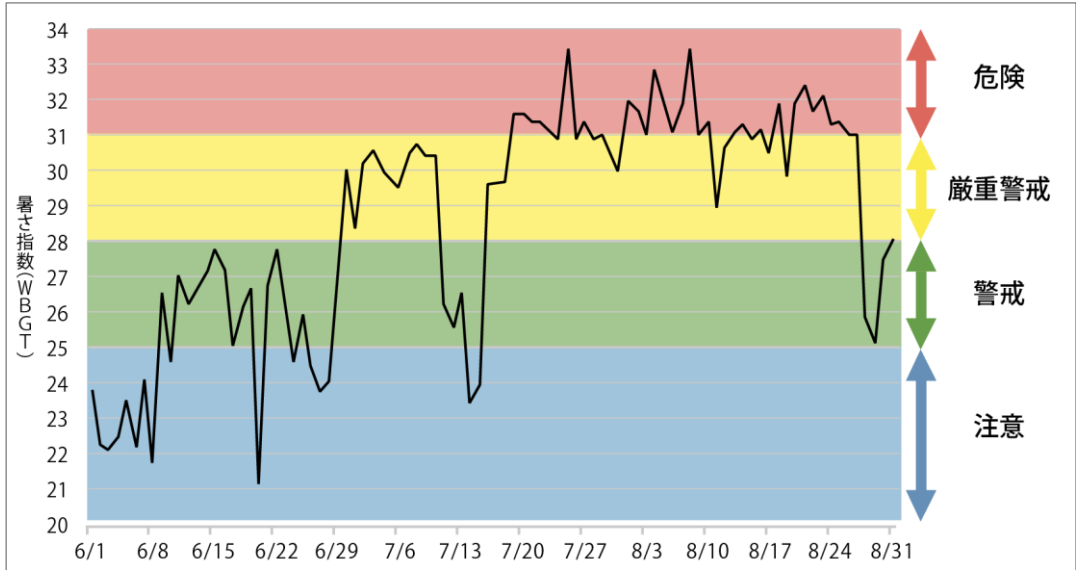


出典：子育て世代へのアンケート（熊本市）

※パーソントリップ調査・・・「人（パーソン）」の「目的を持った移動（トリップ）」を調査したもので、「どのような人が、どのような目的で、どこからどこへ、どのような時間帯に、どのような交通手段で」移動しているかを把握することができます。

- 本市において、令和6年6月から8月までの92日間のうち、暑さ指数が28（厳重警戒）以上の日は55日に及んでいます。また、1年のうちおよそ3割の期間で、0.5mm以上の降水量が確認されているなど、快適な歩行・滞在環境を妨げる一因となっています。

【本市の暑さ指数（R6実況推定値（速報））】



参考：暑さ指数（WBGT）

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性 が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に 移動する。
厳重警戒 (28以上31未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇 に注意する。
警戒 (25以上28未満)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に 休息を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働 時には発生する危険性がある。

出典：熱中症予防情報サイト（環境省）

【本市において2023年に0.5mm以上の降水量があった日数】

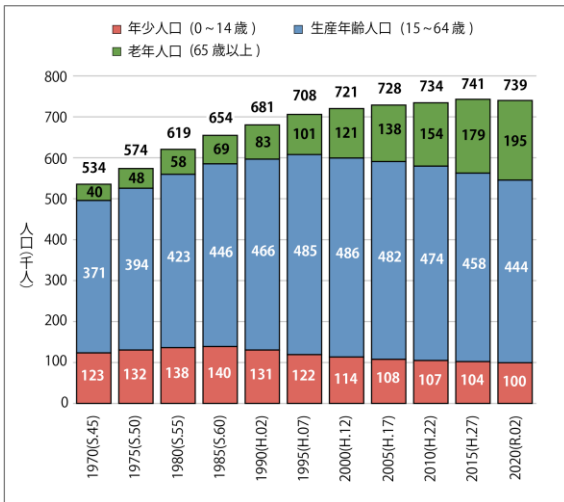
(日)												
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
10	9	9	12	9	15	16	12	8	3	6	9	118

出典：過去の気象データ検索（気象庁）

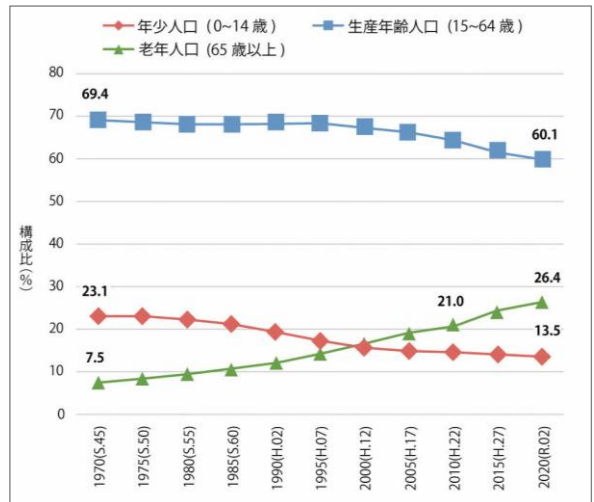
2 中心市街地の活力

- 本市の総人口は、令和2年国勢調査において、戦後初めての減少となりました。年代別では、年少人口は1985年頃から、生産年齢人口は2000年頃から減少が続いています。一方で、老年人口は増加傾向が継続しており、令和2年（2020年）には、総人口の4人に1人が65歳以上の高齢者となっています。
- こうした本市の状況を踏まえ、令和2年国勢調査を初期値とし「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の仮定値により将来推計を行った結果、総人口、年少人口及び生産年齢人口の減少に歯止めがかからず、老年人口は2045年頃まで増加を続け、その後横ばいで推移し、高齢化率も36.1%まで増加して、その後高止まりとなる見込みです。

【熊本市の年齢3区分別人口】 ※合併組替人口

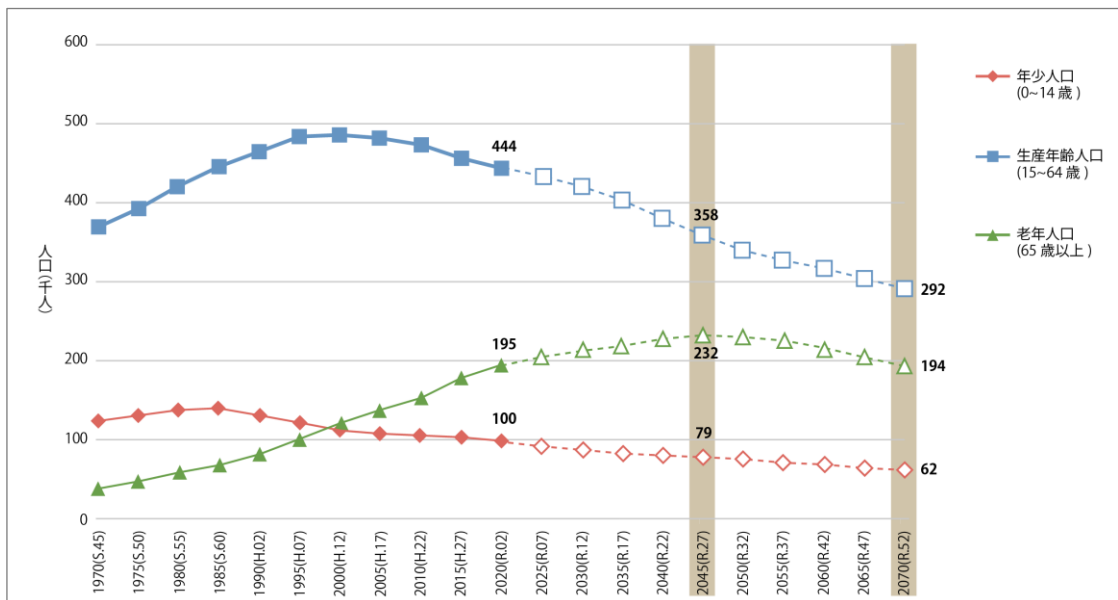


【熊本市の年齢3区分別人口構成比】 ※合併組替人口



出典：熊本市人口ビジョン
※合併等に伴い、旧市町村単位の人口を現在（2023年）の市町村域に組替えた人口

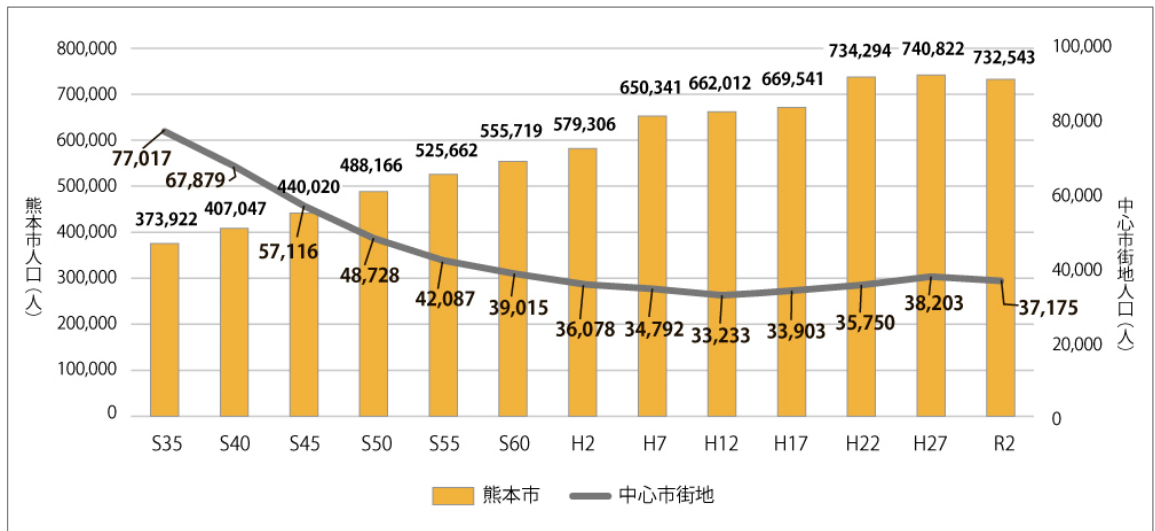
【熊本市の年齢3区分別人口の将来推計】



出典：熊本市人口ビジョン

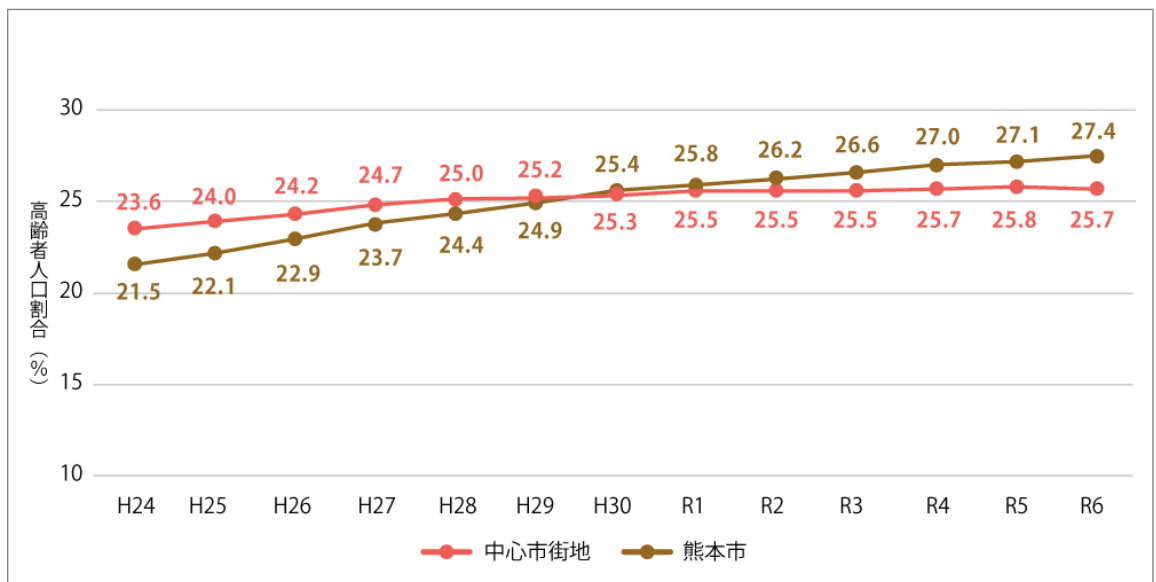
- ・ 中心市街地の人口は、減少傾向にあり、平成12年（2000年）を機に上昇傾向に転じましたが、平成27年（2015年）の38,203人から再び減少傾向となっています。
- ・ 中心市街地の高齢化率は、本市全域に比べ高い傾向にありましたが、平成30年（2018年）を境に、本市全体よりも低くなっています。

【熊本市の中心市街地の人口】



出典：国勢調査（総務省）、中心市街地の令和2年は住民基本台帳（R2.10 時点：熊本市）

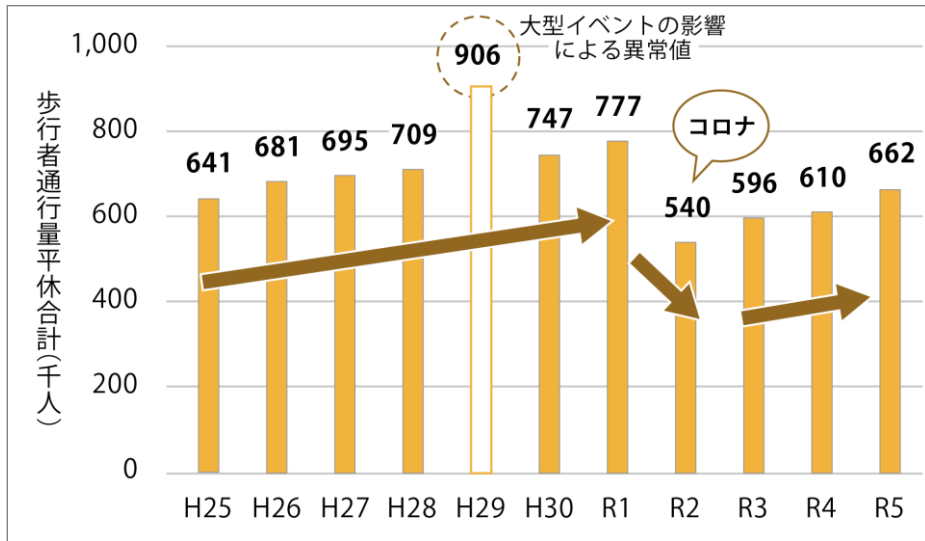
【高齢者人口割合】



出典：住民基本台帳（各年4月1日：熊本市）

- 中心市街地の歩行者通行量は、平成25年から令和元年まで増加傾向にありました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少しましたが、令和5年度は令和元年度比の85%にまで回復しています。

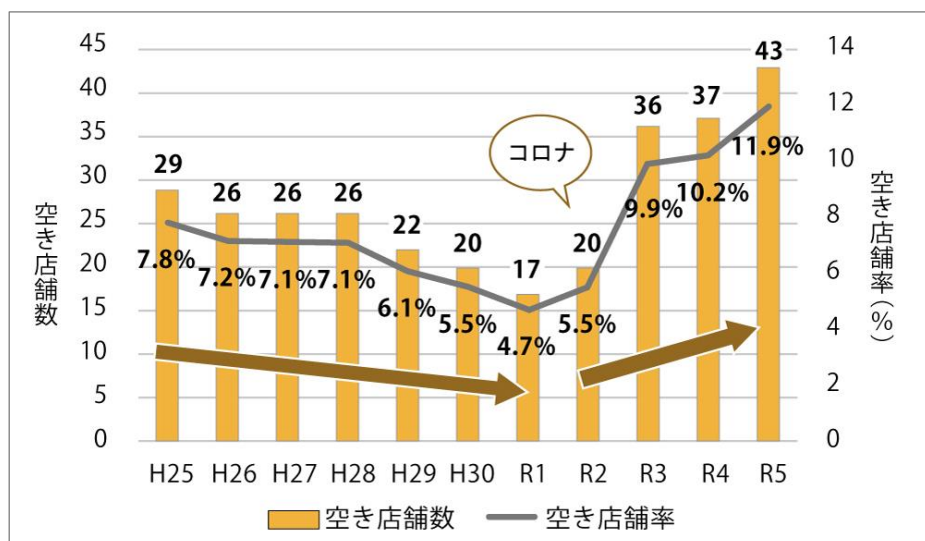
【中心市街地の歩行者通行量の推移】



出典：商店街通行量調査結果報告書（熊本市）

- 中心市街地の主な商店街の空き店舗数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和3年度に急増しました。以降令和5年度まで、空き店舗および空き店舗率はゆるやかに上昇しています。

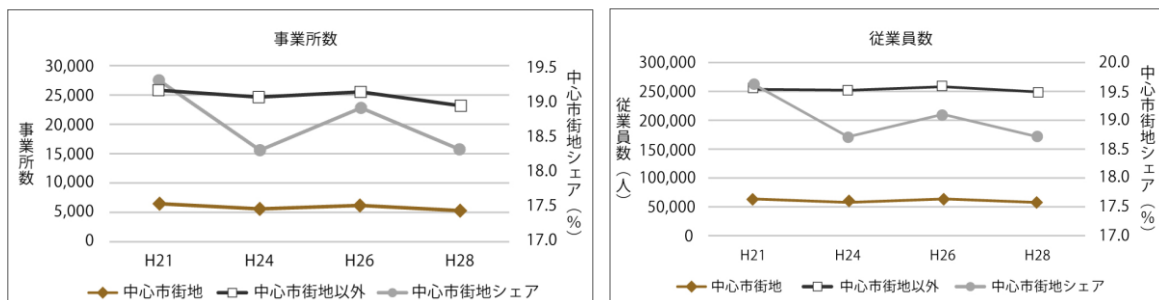
【中心市街地の主な11商店街1階フロアの空き店舗数・空き店舗率の推移】



出典：令和5年度（2023年度）商店街業種及び空き店舗調査（熊本市）

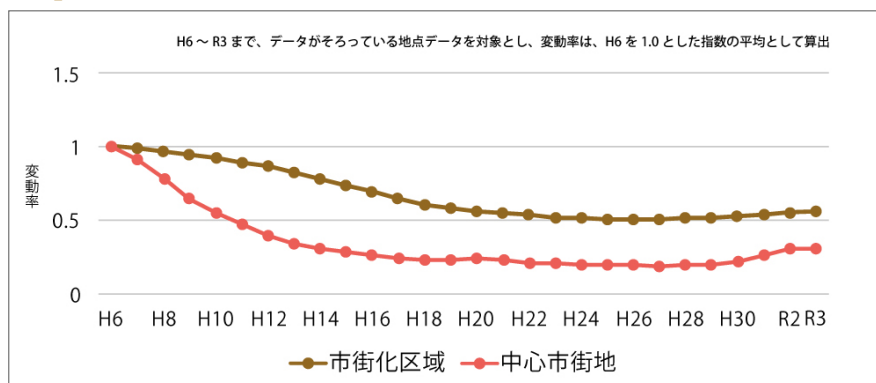
- ・本市中心市街地における事業所数、従業者数及び地価推移は減少傾向となっています。

【中心市街地における事業所数、従業者数】



出典：平成28年度経済センサス（総務省）

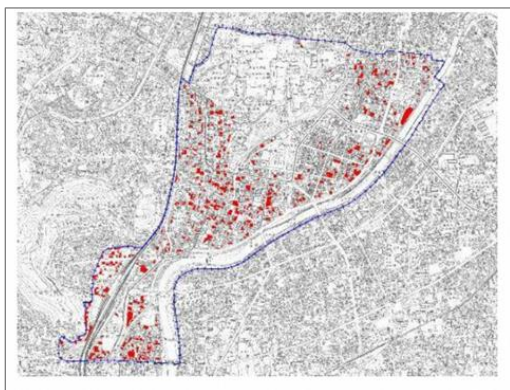
【本市の地価推移】



出典：地価公示 都道府県地価調査（国土交通省）

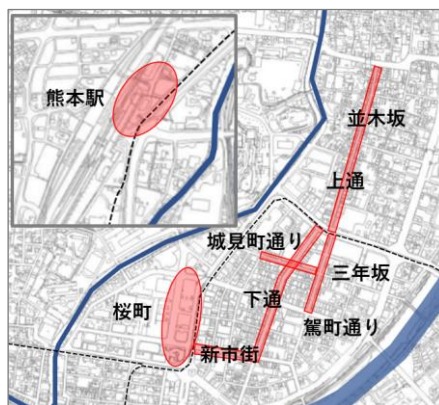
- ・本市中心市街地において、低未利用地（駐車場利用含む）が広く分布している一方で、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度※や広場など、人のための空間が整備されており、今後の利活用が期待されます。

【低未利用地分布図】



出典：熊本商工会議所

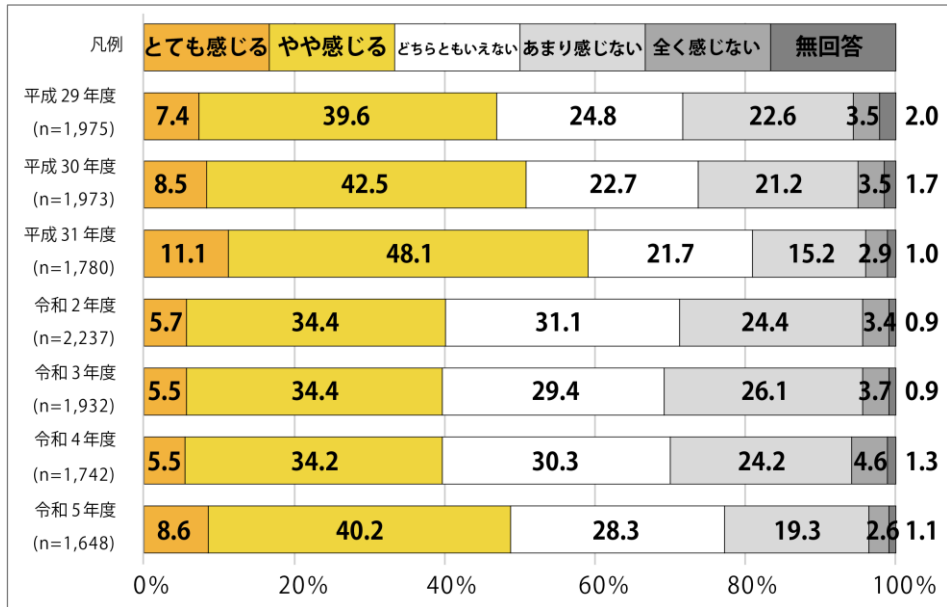
【広場及びほこみち指定箇所】



※歩行者利便増進道路制度・・・道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにする制度のこと。この制度によって道路空間を活用する際に必要となる道路占有許可が柔軟に認められるようになり、たとえば、幅の広い歩道にオープンカフェやベンチなどを置いて、歩行者にとって便利でにぎわいあふれる空間を創り出すことができます。

- 「中心市街地ににぎわいがあると感じるか」については、コロナ禍の令和2年度から令和4年度にかけて「とても感じる・やや感じる」は約4割にとどまっていますが、令和5年度にはコロナ禍以前の水準に回復しつつあります。

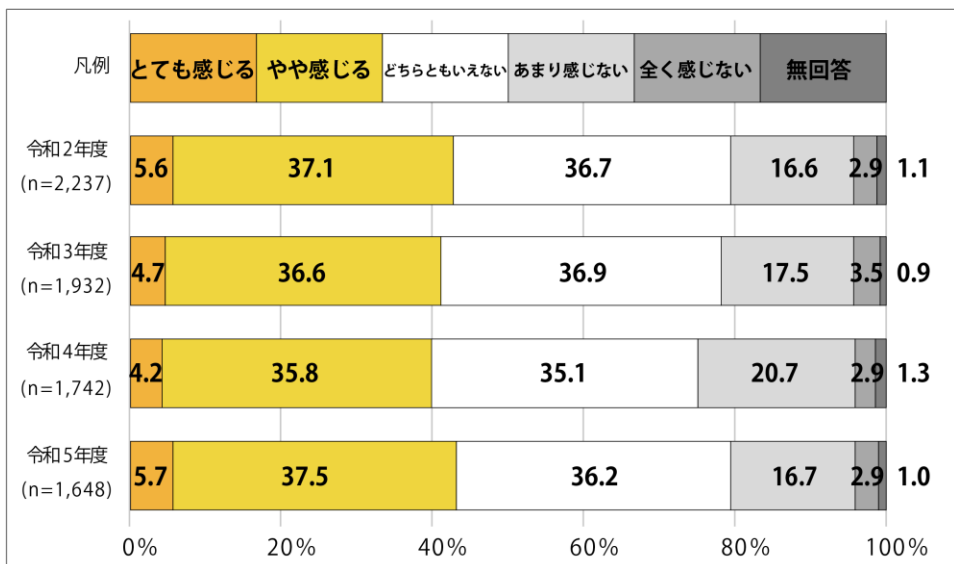
【中心市街地ににぎわいがあると感じる市民の割合】



出典：第7次総合計画に関する市民アンケート調査（熊本市）

- 「中心市街地が良好な景観が保たれていると感じるか」については、「とても感じる・やや感じる」の割合は約4割にとどまっており、令和2年度以降大きな変化はみられません。

【中心市街地が良好な景観が保たれていると感じる市民の割合】

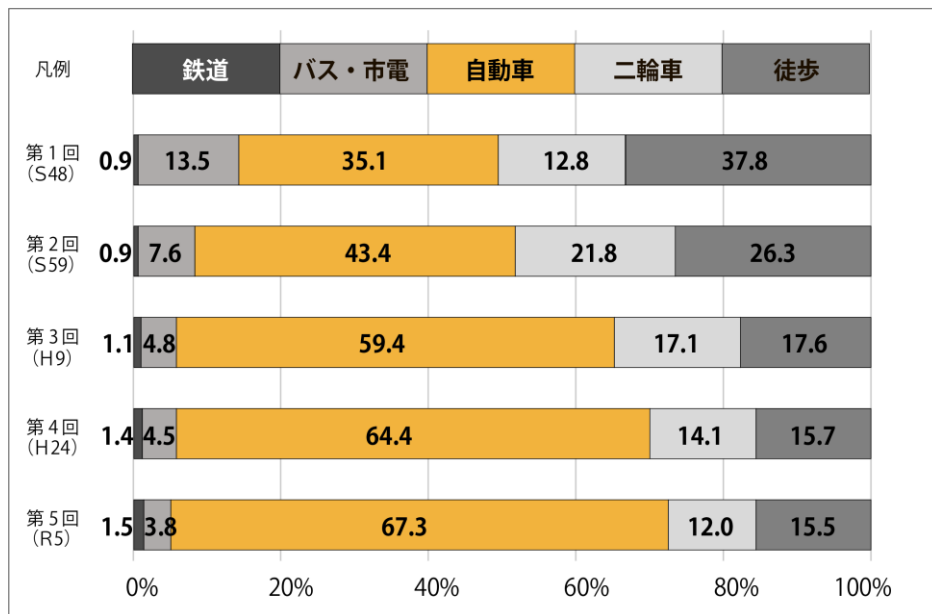


出典：第7次総合計画に関する市民アンケート調査（熊本市）

3 交通

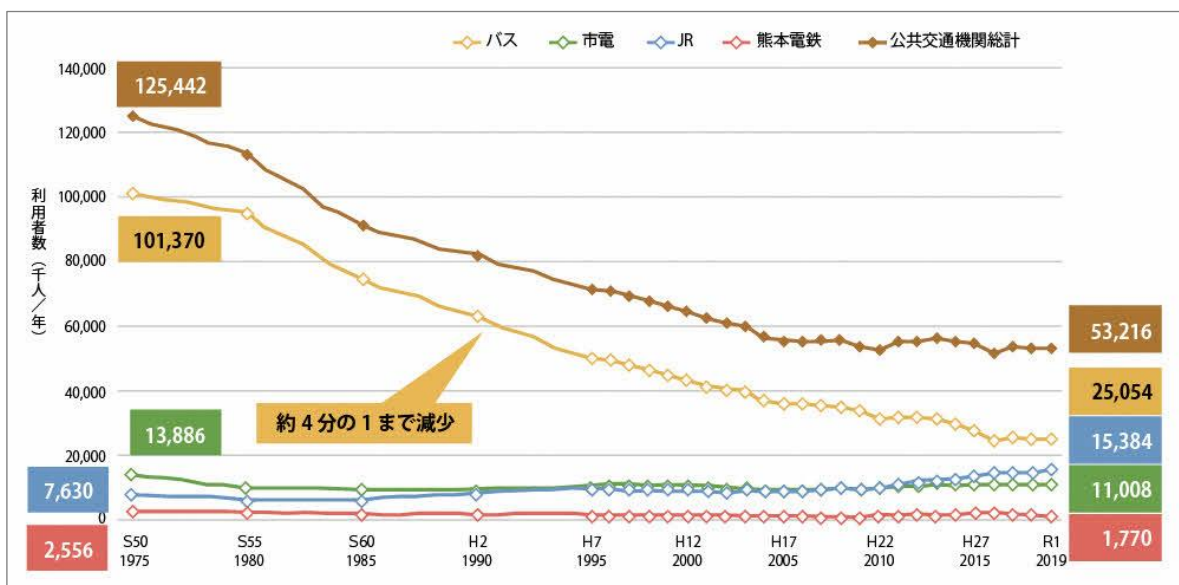
- 交通手段分担率は、自動車が年々増加している一方、公共交通や徒歩移動は減少しており、自動車に依存した交通体系となっています。
- 公共交通機関の利用者数は減少傾向が続いています。特に路線バス（九州産交バス、産交バス、電鉄バス、熊本バス、都市バス）の利用者は、昭和50年に比べて約4分の1まで減少しています。

【交通手段分担率の変化】



出典：熊本市圏都市交通マスタープラン及び第5回熊本市圏パーソントリップ調査結果（熊本市圏総合交通計画協議会）

【公共交通利用者数の推移】



出典：統計資料及び各交通事業者提供資料

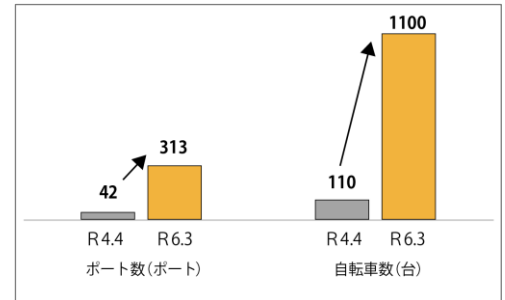
- ・ 歩くときに抵抗を感じない距離は300mとも言われており、中心市街地内（約415ha）を快適に回遊するためには、「歩く」だけでなく様々な移動手段が必要となります。
- ・ 本市とチャリチャリ株式会社が連携し、令和4～5年度の2か年にわたりシェアサイクルの実証実験を行いました。この期間でサイクルポート数は開始時点と比べて約7.5倍、自転車数は10倍に増加しており、「ちょっとそこまで」の日常的な移動手段として定着しています。

【歩くことに抵抗を感じない距離】

条件	一般的な人 (歩行速度 80m/分)	高齢者等 (歩行速度 40m/分)
90%の人が抵抗感なし (約3.5分)	300m	100m
大きな荷物がある (約2分)	150m	80m
雨 (約2分)	150m	10m

出典：バスサービスハンドブック（平成18年11月、土木学会）

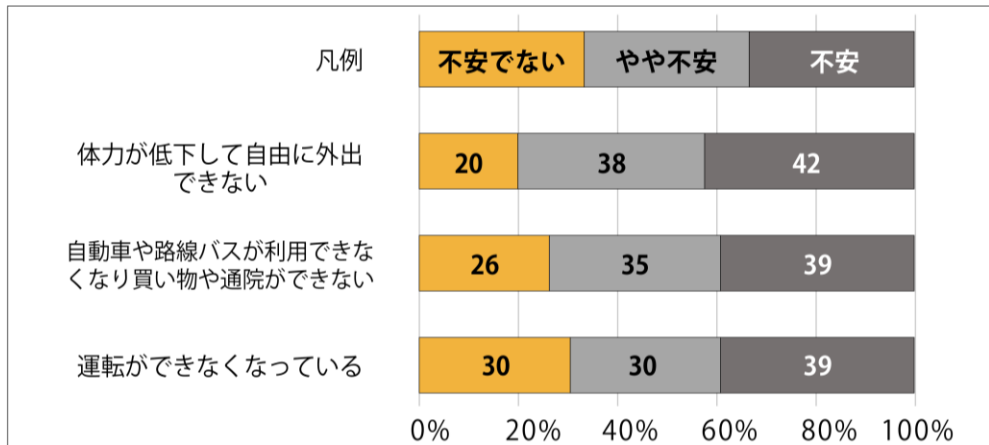
【熊本市のチャリチャリポート数・自転車数】



出典：熊本市

- ・ 「20年後の生活に何を不安に感じるか」のアンケートでは、体力低下による外出に対する不安や、自動車の運転や移動手段の確保に対する不安が約7割～8割に上っています。

【20年後の生活の不安】



出典：第4回熊本都市圏パーソントリップ調査結果（熊本都市圏総合交通計画協議会）

4 ウォーカブルなまちづくりの推進に係る課題

ウォーカブルなまちづくりの推進にあたり、「歩行・滞在環境」「中心市街地の活力」「交通」の3つの視点から課題を整理しました。

現状 歩行・滞在環境の状況

- 中心市街地の歩行環境は、狭い・段差があるなど歩きにくい場所が多く見られ、自動車と歩行者の動線が輻輳し、人対車の交通事故も多く発生しています。
- 安全な歩行空間や、ベンチなどの休める場所、子育て世代では公園や広場などの遊べる場所が求められています。

課題 安全で快適に歩行・滞在できる空間整備が必要（ハード）

歩道の拡充やバリアフリー化、広場や公開空地の整備等により、こどもから高齢者まで中心市街地を利用するすべての方が、安全で快適に歩行・滞在できる空間を整備することが必要です。

現状 中心市街地の活力

- 中心市街地の人口や商業機能などは減少傾向にあり、歩行者通行量は新型コロナウイルス感染拡大前に比べて減少するなど、中心市街地の活力が低下しています。
- 低未利用地（駐車場利用含む）が広く分布している一方で、歩行者利便増進道路（ほこみち）や広場など、人のための空間が整備されており、今後の利活用が期待されます。

課題 訪れたいくなるしかけづくりが必要（ソフト）

広場等の開かれた空間の利活用促進や本市ならではのまちなみを活かした魅力的な景観の演出など、多様な使い方や過ごし方ができるしかけづくりが必要です。

現状 交通の状況

- 自動車に依存した交通体系となっている中、体力の低下による外出に対する不安や、移動手段の確保に対する不安の声が挙がっています。
- 歩くことに抵抗を感じない距離は300mと言われており、中心市街地（約415ha）を快適に回遊するには、歩くだけでなく様々な移動手段が必要です。
- シェアサイクルの利用状況は好調で、重要な移動手段のひとつとなっています。

課題 多様な選択肢のある移動環境の構築が必要（モビリティ）

自動車への過度な依存から脱却し、自動車、公共交通、自転車、徒歩などの様々な交通手段を組み合わせることで、多様な選択肢のある移動環境を構築することが必要です。

3章 ビジョンの方針

- 1 対応の方向性
- 2 目指すウォーカブルなまちの姿
- 3 地区ごとのウォーカブルなまちのイメージ
- 4 回遊ルート及び重点エリアの設定
- 5 実現までのストーリー

1 対応の方向性

本市が目指すウォーカブルなまちを実現させるため、2章で整理した課題の解決に向け、対応の方向性を以下のとおり設定します。

つくる

課題：安全で快適に歩行・滞在できる空間整備が必要（ハード）

安心して快適に過ごせるまちなか

（取組方針）人中心の都市空間の整備

- まちなかを安全で快適に歩行・滞在できる空間づくりに取り組みます。
- 歩道の拡充やバリアフリー化、広場・公開空地の整備、暑さを和らげる環境整備等により、人中心のまちなかを創出します。

つかう

課題：訪れたくなるしかけづくりが必要（ソフト）

多様な過ごし方ができるまちなか

（取組方針）都市空間の利活用促進

- まちなかに訪れたくなるような多様な過ごし方ができる日常づくりに取り組みます。
- 魅力的な景観資源の発掘や、道路、広場、公園、隣接する民間のオープンスペース等の利活用を促進し、官民連携して多様な過ごし方ができるまちなかを創出します。

つなぐ

課題：多様な選択肢のある移動環境の構築が必要（モビリティ）

快適に移動できるまちなか

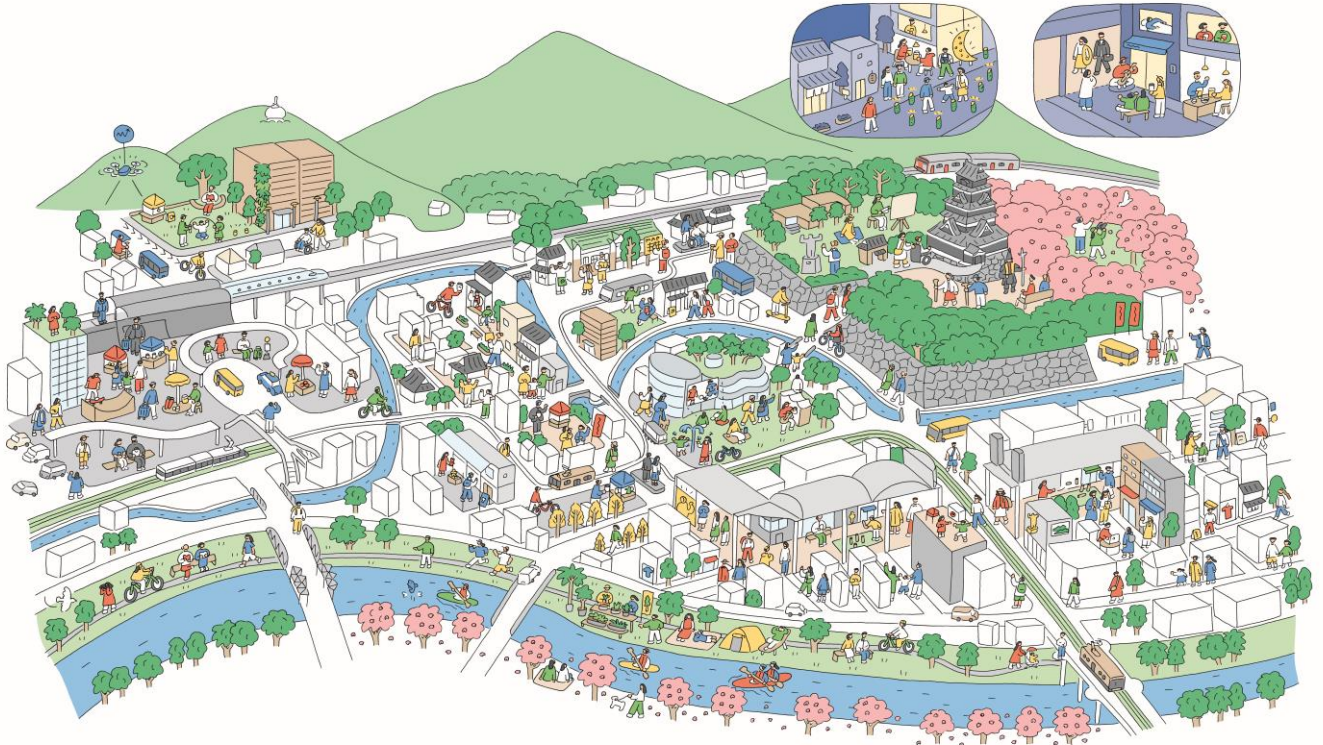
（取組方針）多様な移動手段の提供

- まちなかの移動手段に選択肢を増やし、快適に移動できる環境づくりに取り組みます。
- 公共交通の利用促進や自転車活用推進、新たなモビリティの導入検討などにより、訪れやすく移動しやすいまちなかを創出します。

2 目指すウォーカブルなまちの姿

対応の方向性に基づいた取組を総合的、一体的に講じ、官民連携して熊本市の目指すウォーカブルなまちの姿である「多様な人々が 開かれた空間で 居心地よく快適に過ごせるまち」の実現を図ります。

—— 目指すウォーカブルなまちの姿 ——
多様な人々が 開かれた空間で 居心地よく快適に過ごせるまち



【ウォーカブルなシーン】

住んでいる人



- ・いつも歩くみちが安全で
きれいで歩きやすいまち
- ・車を使わなくても便利に
移動できて生活に必要な
モノが揃うまち
- ・マルシェなどでにぎわっ
ており、地域の特産物な
どにもふれることができ
るまち

働いている人



- ・お昼休みは外に出てお弁
当を食べることができる
まち
- ・気分転換にオープンス
ペースでテレワークでき
るまち
- ・公共交通機関で通勤でき
るまち



観光している人

- ・名所が様々な移動手段や
歩いて楽しいみちでつな
がっていて、巡りやすい
まち
- ・写真に残したくなる風景
がたくさんあるまち



こども・子育て世代

- ・こどもが安全に遊べる場所があるまち
- ・親同士のコミュニティがうまれるまち
- ・ベビーカーでも移動しやすいまち



若者

- ・外に集まって友達と勉強したり、雑談したり、意見交換したりできるまち
- ・新しいことにチャレンジできるまち



障がい者

- ・段差がなく障がいのある人でも移動しやすいまち
- ・オープンスペースがバリアフリーになっていて使いやすいまち



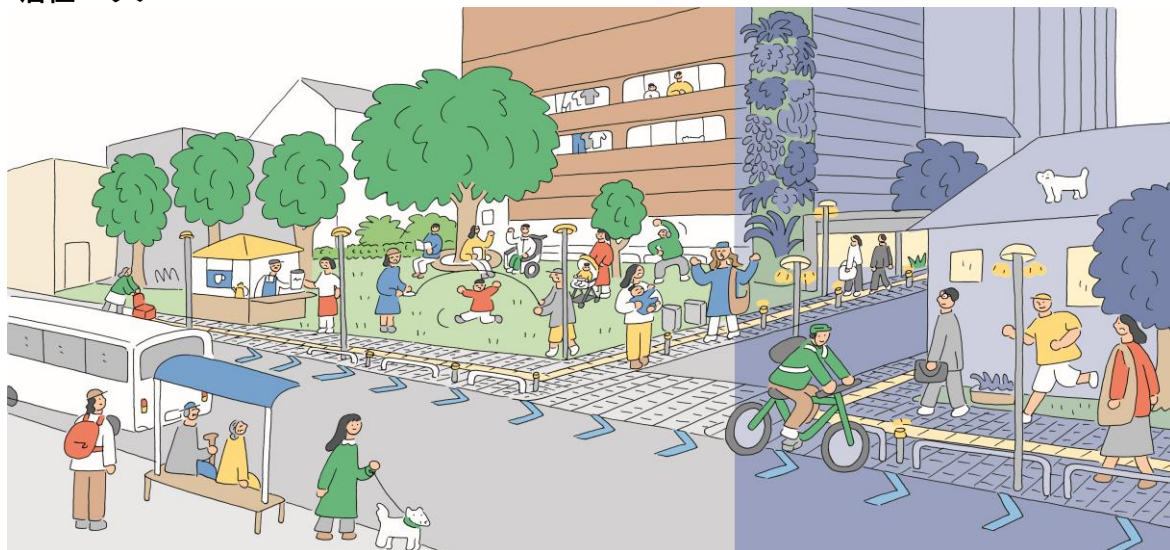
高齢者

- ・疲れたらすぐに休憩できるまち
- ・仲間と公園で散歩や体操をして健康を保てるまち

<商業エリア>



<居住エリア>



<自然（水辺）エリア>



<広場エリア>



<歴史・文化エリア>



3 地区ごとのウォーカブルなまちのイメージ

通町筋・桜町周辺地区



【地区の特徴】

商業・業務機能の集積が特に高く、また、バスターミナルをはじめとする交通機能や、ホール・会館などの公共公益施設も集積するなど、中心市街地の核となっている地区です。西日本最大級のアーケード街や花畑広場等を最大限に活用することで、にぎわいの創出や回遊性の向上を図っています。

【地区方針】

- サービスを整えた広場や公園だけでなく、小規模でも多様な過ごし方ができる居心地の良い空間を創出します。
- アーケード街や花畑広場を軸に、安全で快適に歩き、滞在できる歩行者空間を広げていきます。
- バスや電車の乗降環境や自転車の利用環境を整えるとともに、駐車場の総量と配置を適正化します。

熊本城地区



【地区の特徴】

熊本城を中心に、県立美術館や熊本博物館などの文化施設が集積し、多くの樹木や鳥類などの生物が生育・生息する地区です。多くの観光客が訪れるとともに市民の憩いの場としても利用されています。

【地区方針】

- 国内外からの観光客や市民が繰り返し訪れ、自然や歴史、文化にゆっくり触れられる環境やしかけを整えます。
- 熊本城地区の各所の歴史的価値を来訪者に分かりやすく伝え、体感してもらえ空間演出や空間利用を工夫します。
- だれもが気軽に訪れ、楽しみながら回遊できるしかけや移動サービスを整えます。

新町・古町地区



【地区の特徴】

城下町の町割りに各時代の建物が共存し、城下町の生活文化を感じさせる地区です。熊本市歴史的風致維持計画における重点区域に位置付けており、住宅地も並ぶ風情のある町並みや、景観に配慮した城下町の雰囲気を活かしたまちづくりを進めています。

【地区方針】

- 低未利用の土地や交通量の少ない道路などの屋外で、住民の交流の場やこどもの遊び場などの滞在空間を創出します。
- 住民や来訪者がまちの文化や歴史を感じながら巡り歩ける、町割りを活かした歩行環境を整えます。
- 電車通りに誰にも優しい電車・バスの乗降環境を整え、エリアの新しい顔となる居心地良い遊歩空間を創出します。

熊本駅周辺地区



【地区の特徴】

再開発や駅前広場の整備などが行われ、リニューアルされた熊本の陸の玄関口です。商業ビルやオフィスビル、マンション、ホテルなどの建設が進んでおり、今後も同様の民間開発が期待されています。

【地区方針】

- 駅前広場を起点に小規模な滞在空間を各所に整え、来訪者だけでなく住民も繰り返し訪れたくなるような高揚感を感じさせる町並みを広げます。
- 白川や公園、緑地などの豊かな緑を保全し、様々な野外活動の場としての活用を図ります。
- 公共交通の円滑な乗り継ぎ環境を整えるとともに、エリア内外を結ぶ気持ちの良い遊歩路や、自転車などの低速移動サービスの利用環境を整えます。

4 回遊ルート及び重点エリアの設定

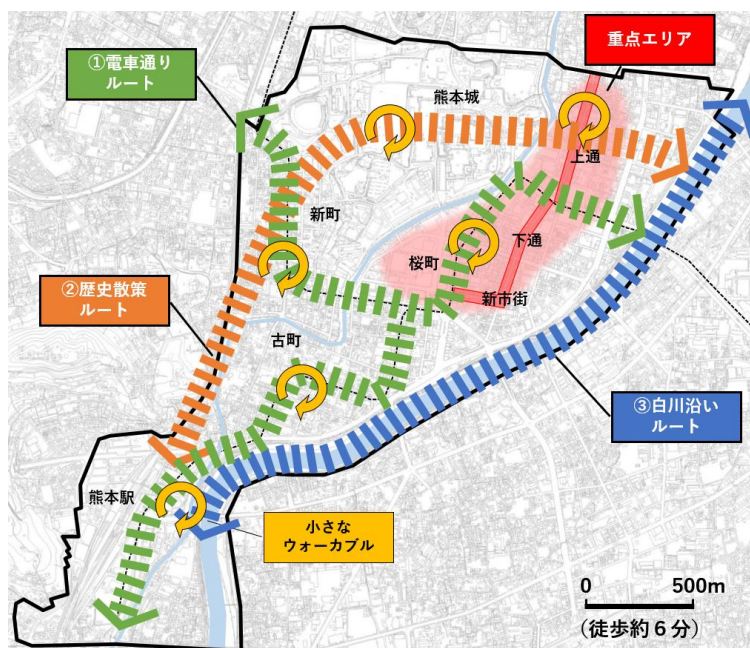
【回遊ルート】

以下の3つのルートを中心として、アクセス性や利便性をより高めるとともに、空間に余裕があるところからベンチや緑を配置し、居心地の良い歩行空間や滞在空間の形成を図ります。

①電車通りルート：電車やバスが通る、中心市街地の骨格となる移動ルートであり、各停留所がまちの入り口の役割を担っている、電車通り沿いのルート。

②歴史散策ルート：熊本駅周辺から古町・新町、熊本城地区、上通周辺までの歴史を感じられるルート。

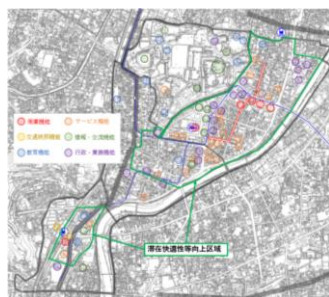
③白川沿いルート：白川ちやりんばみちを中心とした白川周辺のルート。



【重点エリア】

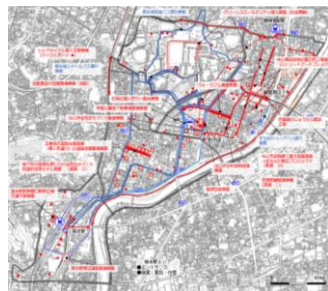
中心市街地における歩行者や都市機能の集積状況、自動車交通量などのデータを整理し、人中心の空間としてのニーズやポテンシャルが高いエリアを抽出しました。

このエリアでは、様々な取組を重点的に行うとともに、アーケード街や花畑広場を軸に人中心の空間を広げていけるよう、地域の方々とともに検討を進めます。



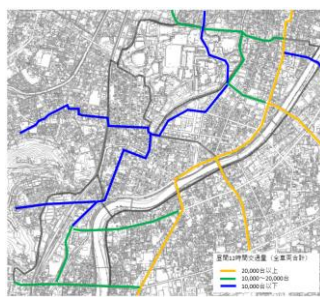
①都市機能集積状況と主要な施設の配置

まちなかの商業機能や交通結節機能、情報・交流機能等の主要な施設は桜町を中心に集積している



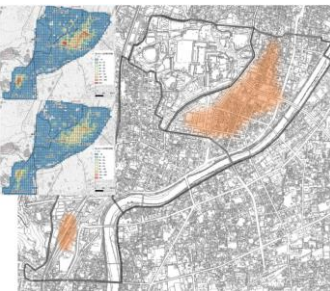
③中心市街地活性化基本計画掲載事業

掲載事業の中でウォーカブルに関連する事業をプロット



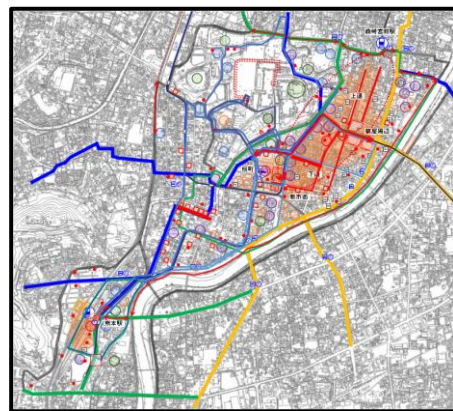
②自動車交通の状況（R3交通センサス）

国道3号と白川の東側では自動車交通量が多い一方で、熊本城周辺では比較的少ない



④歩行者の集積状況（R5人流データ）

通町筋・桜町周辺地区の中でも2核3モールのエリア一帯に歩行者の集積が見られる



<検討の進め方（例）>

発案

（例）〇〇通りの歩行者空間を広げたい！

**実証実験・
評価**期間限定で歩行者空間を
広げる実験を行う**検討**住民・事業者・地権者・周辺の関連団
体や協議会・交通管理者・道路管理者
などと意見交換し、合意形成を図る**調査・計画**交通量調査や実現に
向けての計画策定を行う**実装**

5 実現までのストーリー

熊本市の中心部に位置する上通・下通・新市街のアーケード街は、かつてはアーケードがなく、車道として利用されていました。その後、全蓋アーケードが建設され、車道は歩行者天国となり、雨の日でも快適に過ごせる全天候型の歩行者空間が誕生しました。

また、熊本城と中心商店街をつなぐ場所にある花畑広場は、「熊本城と庭つづき まちの大広間」のコンセプトのもと、かつては車道とビルだった場所が、歩いて楽しめる歩行者中心のまちづくりの拠点として、市民の日常的な憩いや中心市街地の「賑わい」を創出するための広場に整備されました。

かつての車道が時代のニーズに応じて形を変え、歩行者空間として整備された、熊本市の象徴的な場所といえます。

【上通の変化】



昭和初期

出典：（熊本百景）最も繁華なる商店街、上通町筋
（熊本市歴史文書資料室所蔵）



令和7年（2025年）

【花畑広場周辺の変化】



平成24年（2012年）



令和3年（2021年）

このように、中心市街地にはすでにアーケード街や広場などの人中心の空間があり、マルシェや文化活動などの様々な利活用により、にぎわいが創出されています。「多様な人々が開かれた空間で居心地よく快適に過ごせるまち」の実現に向けて、これらの取組を中心市街地全体に広げていく必要があります。

◆花畑広場の様子



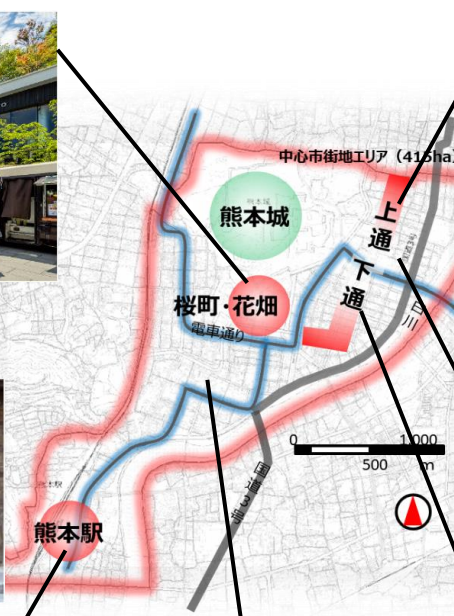
◆アーケード街の様子



◆白川夜市



◆シェアサイクルの利用が好調



◆地産地消フェア



◆熊本駅前広場の様子



◆昔ながらの町割りや町屋が残っている



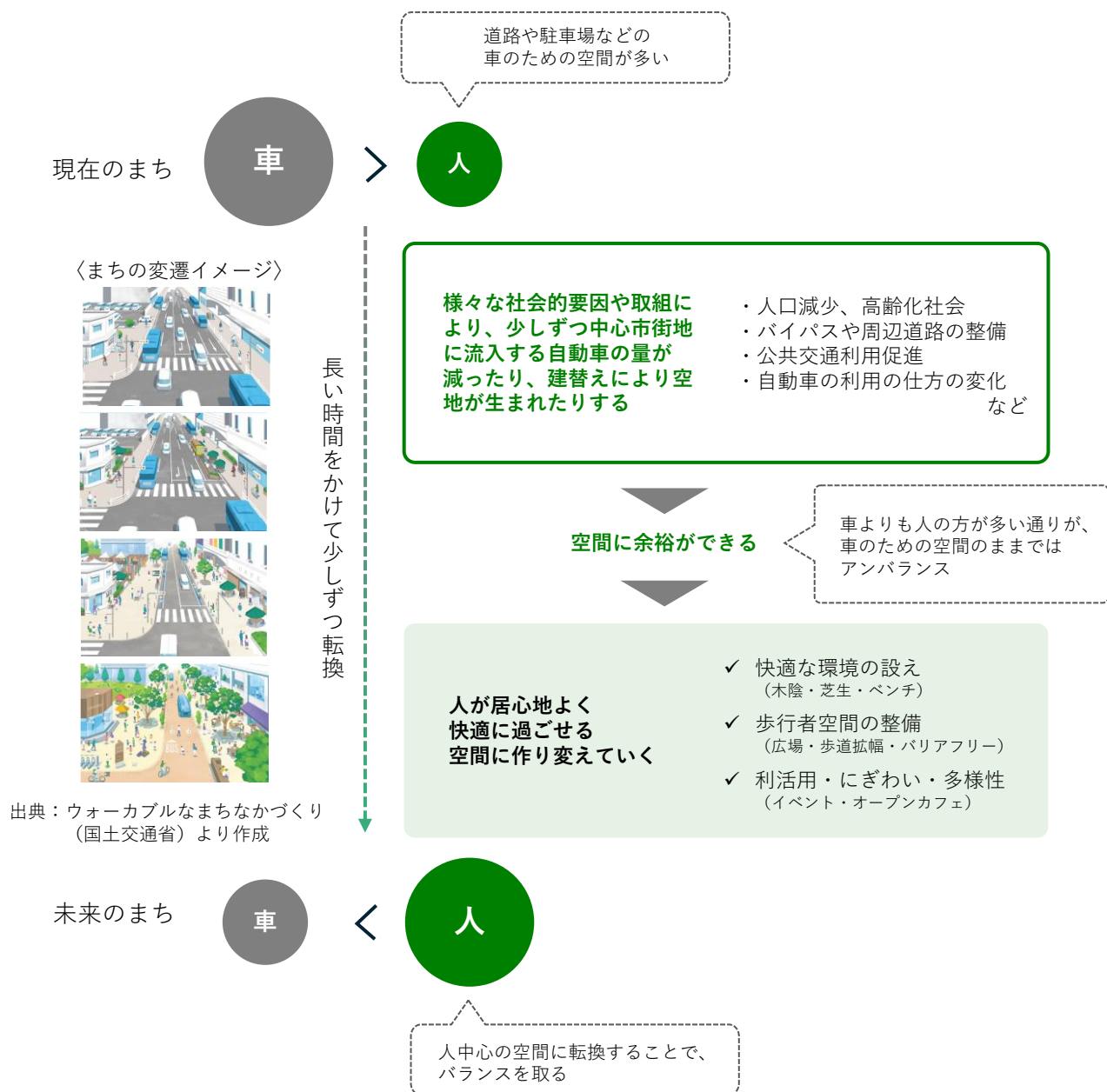
◆ストリートアートプレックス (さまざまなパフォーマンスアート活動をストリートで展開するプロジェクト)



◆様々な交通機能が 集まっている



自動車交通に必要な空間を確保しつつ、人が居心地よく快適に過ごせる「人中心」のまちなかへ転換するには、ルールづくりや合意形成などにも必要なため、時間を要します。実現に向けては、移動手段に関する技術革新や社会情勢の変化を踏まえ、バイパスや周辺道路の整備、公共交通利用促進などの様々な取組を積み重ねていく中で、少しずつ車の量が減ったり、建替えにより空地が生まれたりして余裕ができた空間を、居心地よく快適に過ごせる空間に作り変えていけるよう官民連携して検討を進めます。



4 章 実現に向けた施策展開イメージ

- 1 つくる／安心して快適に過ごせるまちなか
- 2 つかう／多様な過ごし方ができるまちなか
- 3 つなぐ／快適に移動できるまちなか

4章では、本市ですでに実施されている取組や、検討中の取組、他都市の事例等を、施策展開イメージとして紹介します。

1 つくる／安心して快適に過ごせるまちなか

〈取組方針〉人中心の都市空間の整備

（１）歩行空間等のバリアフリー化

熊本市バリアフリーマスタープランに基づき、歩行者空間等のバリアフリー化に取り組み、歩道や横断歩道、ユニバーサルデザインに配慮したサインなど、障がい者や高齢者、こども・こども連れをはじめ、誰もが移動しやすいみちの整備を推進します。また、バリアフリーマスタープラン策定に伴う具体事業として、バス停留所の待合環境を改善しバリアフリー化を図るため、ベンチ設置に取り組みます。

【歩行空間確保のイメージ】

電柱の撤去により幅の広い歩道を整備(イメージ)



〈整備前〉



〈整備後イメージ〉

出典：熊本市バリアフリーマスタープラン

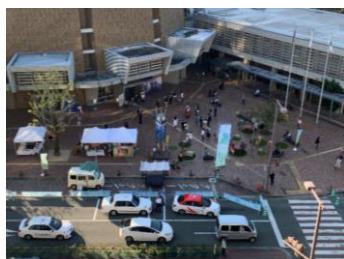
【バス停ベンチ等の設置推進】



（２）歩行・滞在空間等の拡充

市民会館前や上乃裏通り、熊本駅新幹線口駅前広場など、中心市街地の歩行者通行量の多いエリアや安全対策が求められるエリアにおいて、地域の方々とワークショップや意見交換等を行いながら、歩行・滞在空間の拡充を図ります。

【市民会館前の歩道拡幅社会実験の様子（R5）】



【上乃裏通りワークショップの様子】

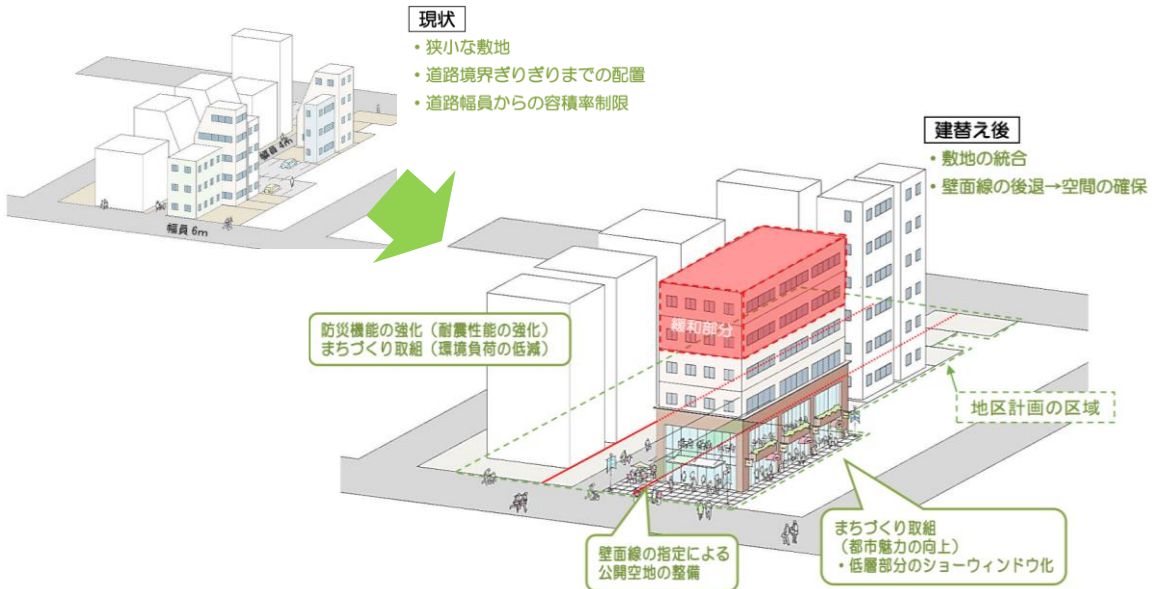


(3) まちなか再生プロジェクト

まちなか再生プロジェクトでは、老朽建築物の建替え等により、耐震性、防火性等を向上させるとともに、広場や歩道といった有効な空地を生み出すことで災害時の避難・活動空間を確保するなど、災害に強い上質な都市空間を創出する取組です。また、まちの活力を生み出す建築物の適切な更新等は、歩行空間の整備や景観の向上など、誰もが歩いて楽しめる魅力的な都市空間の創出にもつながります。

こうした取組を官民一体となって推進し、災害に強く魅力と活力あるまちなかを形成します。

【建替えのイメージ例】



出典：まちなか再生プロジェクト パンフレット

【参考事例】

■段階的な道路空間再編のイメージ



STEP1：道路空間を車両と歩行者が利用しているが、通行のみ。沿道との一体的な活用はなし。

STEP2：一つの車線を転用し、実験的にパークレットやキッチンカーを設置。滞在空間を確保し、歩行者の利便を増進。

STEP3：主要な道路交通を別の路線に分担し、車線を減少させ、歩行者空間を拡大。沿道の店舗と連携しながら、歩行者空間を活用。

STEP4：一般の交通は排除し、トランジットモール化。駐車場は歩行者が集える空間にするなど、歩道と沿道が一体となって賑わいを創出。

出典：道路空間の利活用について（国土交通省）

【参考事例】

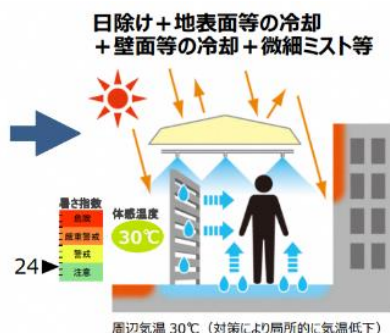
■サンキタ通り ※兵庫県神戸市

神戸市では、神戸三宮阪急ビルの建て替え及び高架下店舗のリニューアルに合わせて、隣接するサンキタ通りの再整備を実施。道路の設えを歩車道の段差がないフラットで一体的な形状とし、ゆったりと歩きやすい道路空間となっている。



出典：サンキタ通りの再整備（神戸市）

■まちなかの暑さ対策ガイドライン



地球温暖化や都市のヒートアイランド現象によって、都市で生活する人々が夏に感じる暑さは厳しさを増している。環境省は、「まちなかの暑さ対策ガイドライン」を策定し、まちなかの暑さ対策を推進している。

出典：まちなかの暑さ対策ガイドライン 令和4年部分改訂版（環境省）

■横断歩道近傍のパーゴラ（藤棚） ※埼玉県熊谷市JR熊谷駅前



暑くても信号待ちの間滞在しなければならない交差点の歩道に、暑さ対策を実施した例。道路の付属物である「街路樹」として、藤棚を設置。

出典：まちなかの暑さ対策ガイドライン
令和4年部分改訂版（環境省）

■グラングリーン大阪 ※大阪府大阪市北区



大阪駅前の大規模複合開発である、うめきた2期地区開発プロジェクト。約4.5万㎡もの広大な都市公園に加え、オフィスやホテル、商業施設、住宅などの整備が予定されており、令和6年9月に先行まちびらきを迎えた。

また、地域熱供給システムとして井戸水を使用した冷暖房装置や、生ごみの排出を抑制するサイクルシステムなどが整備された。 出典：グラングリーン大阪HP

2 つかう／多様な過ごし方ができるまちなか

〈取組方針〉都市空間の利活用促進

(1) 道路空間の利活用

歩行者利便増進道路（ほこみち）制度を活用し、民間の方々による道路空間の利活用を促進することで、昼も夜も誰もが歩いて楽しめる魅力的で居心地の良い、人中心の空間づくりを進めます。



【下通や上通の道路空間を活用し、商品販売を行う様子】



【歩道上に設置されたベンチで休憩する様子】



(2) 歴史まちづくり

歴史まちづくりは、新町・古町地区において、町屋等の地域資源を活かし一体的な価値や魅力を高めるために、地域のまちづくり団体の歴まち支援法人指定のほか、町屋等の保存及び利活用を推進するため町屋等の修景工事等に係る費用の一部の支援や所有者と事業者のマッチングの機会の支援等を行う取組です。

また、周辺環境の整備として唐人町の道路美装化や景観まちづくりルールの策定を行うとともに、プロモーション動画の公開やまち歩き散策マップなど、各種媒体による情報発信に取り組んでいます。

こうした取組を官民連携して推進し、個性と魅力あふれる歴史まちづくりを進めます。

【くまもと古町地区実証実験
〈五感散歩〉※の様子】



【新町・古町地区の町屋】

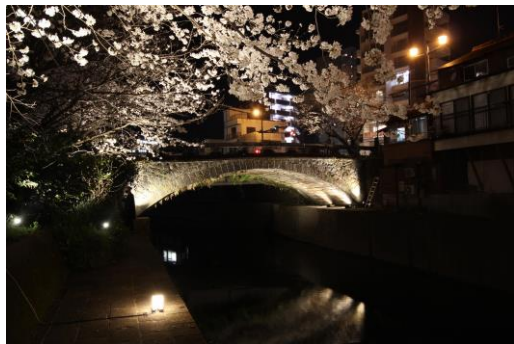


※くまもと古町地区実証実験〈五感散歩〉・・・城下町(古町)地区において、江戸時代から受け継がれている町割「一町一寺」を活かしつつ、新しい形でまちを持続的に発展させるため、路地や寺社・町屋跡の駐車場等を活用する実証実験のこと。

（３）夜間景観の演出

地域のまちづくり活動と協働し、熊本城周辺のライトアップや歴史的建造物および地域の資源のライトアップなどにより、魅力ある夜間景観を創出し、夜間のにぎわい（ナイトタイムエコノミー）の促進を図ります。

【明八橋のライトアップの様子】



【加藤清正像周辺のライトアップの様子】



（４）利活用主体の育成

まちなかの広場を”使いこなす”ことのできる者を育成し、「くまもと広場ニスト※」として認定することで、民間主体による公共空間の継続的な利活用を促進し、賑わいの創出を図ります。

【「くまもと広場ニスト育成スクール」受講生によるトライアルイベントの様子】



※くまもと広場ニスト・・・地域の課題を把握し、地域住民をはじめとした多様な主体をリードして、公園・広場・道路などの公共空間に新たな価値を生み出すことができる企画・運営者のこと。

（５）ウォーカブルMICE※の推進

熊本城ホールなどの施設や宿泊、飲食、観光等のMICE開催に必要な要素の全てが徒歩圏内で収まる地理的優位性を活かし、街並みを楽しみながら各拠点間を徒歩で移動する、「ウォーカブルMICE」の推進を図ります。

【ウォーカブルMICEのイメージ】



（６）安全安心まちづくり

熊本市中心部のアーケード街への自転車等の乗り入れ、客引き行為、勧誘行為等の「違法行為」に対する指導等を行っています。アーケード周辺を巡回指導員がパトロールすることで、安全・安心に繁華街を歩くことができる環境づくりに取り組みます。

そのほか、道路管理者による不法占用看板等の現地確認や指導を実施しています。

【客引き行為等啓発ポスター】



【巡回指導員によるパトロールの様子】



※MICE・・・企業等が開催する内部の会議等（Meeting）、社員や販売代理店等に対する表彰や研修などを目的とした報奨旅行（Incentive Tour）、学会や協会が開催する学術会議等（Convention）、文化的な催事や展示会・見本市（Exhibition/Event）など、多くの集客や交流が見込まれる催事の頭文字を用いた総称のこと。

【参考事例】

■IKEBUKURO LIVING LOOP ※東京都豊島区



「都市を市民のリビングへ」をキーワードに、グリーン大通り・南池袋公園を活用してマルシェやワークショップ等を展開している。

出典：IKEBUKURO LIVING LOOP HP

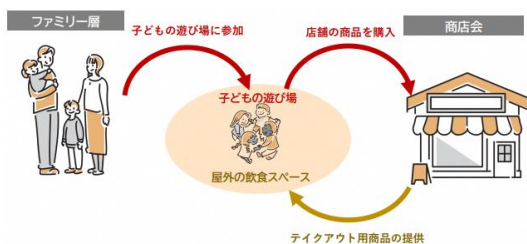
■おみやastreetテラス ※埼玉県大宮市



街路沿道に店舗・休憩・飲食スペースなどを設え、大宮らしい新たな日常を創出することを目的に様々な取組を実施している。

出典：全国まちなか広場研究会 HP

■令和5年度ちよチャレ ※東京都千代田区



「千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン」が示す考え方のもと、子育て世代に向けた実証実験を実施。神田ふれあい通りにて、商店会の沿道道路を子どもの遊び場及び屋外の飲食スペースに変身させた。

出典：千代田区役所 HP

■ストリートパーティー ※千葉県柏市



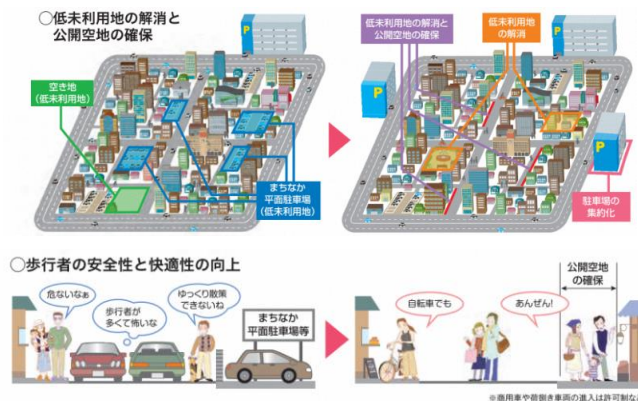
ロンドンの「ストリートプレイ」を参考に、子ども・高齢者の居場所づくり、子どもが安全に遊べる場づくり、多世代交流の場づくり等を目的とし、柏のストリートをあそび・憩いの空間として開放している。

出典：柏アーバンデザインセンター（UDC2） HP

（２）まちなか駐車場適正化

これまでの無秩序な駐車場の整備に起因する様々な問題の解決や、駐車場の新たな利活用を推進するため、駐車場の総量と配置等を適正化し、まちなかの交通円滑化や誰もが安心して訪れられる環境の形成を図ります。

【さらに安全で快適に歩きやすいまちなかへ（熊本都市圏都市交通マスタープラン）】



出典：熊本都市圏都市交通マスタープラン

（３）自転車活用推進

シェアサイクルの導入により、中心市街地の回遊性向上を図るとともに、交通結節点周辺へのポートを充実させることで、自動車から公共交通への転換を促進します。また、自転車走行空間や駐輪場の整備により、自転車が安全で快適に利用できる環境整備を進めます。

【熊本市自転車3“ばい”プラン（熊本市自転車活用推進計画）】



（４）グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティは、環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の移動手段の確保や観光客の周遊に資する「新たなモビリティ」として期待されています。まちなかの回遊性向上やにぎわいを創出するため、実証実験を通して本格導入の検討を行います。

【グリーンスローモビリティの実証実験の様子】



【参考事例】

■宇都宮LRT ※栃木県宇都宮市



宇都宮LRTは、栃木県宇都宮市で令和5年に開業したライトレール。宇都宮市では、中心市街地から郊外の工業団地への車通勤による渋滞が深刻であったこと、人口減少や再生可能エネルギーへの転換などの社会問題に対応するよう、環境負荷の少ない持続可能な公共交通を目指して新たに整備された。

出典：芳賀・宇都宮LRT HP

■自動運転「ZEN drive」 ※福井県永平寺町



自動運転は、交通事故の削減や高齢者等の移動手段の確保、運転手不足の解消等に繋がる技術として期待されている。福井県永平寺町では、1人の遠隔監視者が3台を運行可能なレベル4の自動運行装置の認可を日本初で取得し、2023年5月から無人自動運転移動サービスとして運行中である。

※レベル4… 特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替する状態。

出典：自動運転移動サービス社会実装・事業化の手引き（国土交通省）

■つくモビ ※茨城県つくば市



つくば駅周辺を「スマートモビリティエリア」として設定し、スマートモビリティエリアにおける取組の一環として、楽しく、快適に、まちを回遊できるパーソナルモビリティを活用したシェアリングサービス「つくモビ」を実施している。

出典：つくば市 つくモビ HP

（参考）その他の取組

中心市街地において実施されている、本ビジョンの実現に資する取組を、対応の方向性「つくる・つかう・つなぐ」ごとに整理しました。

①つくる

- 主要地方道熊本高森線（唐人町通り）の道路空間美装化事業
- グリーンインフラ整備推進事業
- 熊本駅周辺道路整備事業
- 自転車走行空間整備事業
- 中心市街地まちづくり推進事業
- ウォーカブル都市推進事業
- 熊本駅新幹線口駅前広場交通対策事業
- 中心市街地建て替え促進事業（まちなか再生プロジェクト）
- バリアフリーマスタープラン関連事業
- 市電緑のじゅうたん敷設工事
- 熊本市バス停ベンチ設置事業

②つかう

- 熊本駅周辺エリア魅力発信事業
- 花畑広場にぎわい創出事業
- グリーンインフラ整備推進事業（再掲）
- 中心市街地まちづくり推進事業（再掲）
- ウォーカブル都市推進事業（再掲）
- 熊本市民会館文化芸術活動支援事業
- 熊本市現代美術館文化芸術活動支援事業
- 熊本市国際交流会館国際交流推進事業
- 中心市街地ごみ対策事業
- 不法投棄監視事業
- 景観条例関係事業
- 城下町の風情を感じられる町並みづくり事業
- 町屋利活用モデル事業
- 夜間景観推進事業
- 地産地消フェア開催事業
- 商店街活性化対策事業
- 安全安心まちづくり推進事業
- にぎわいづくり推進事業
- くまもと大邦楽祭
- 植木市開催事業
- 中心商店街地区魅力向上事業
- 桜の馬場観光交流施設管理運営事業
- 熊本城おもてなし事業
- 文化芸術支援事業
- MICE誘致戦略事業
- くまもと花博
- 観光客受入環境整備事業
- ほこみち利活用促進事業
- 城下町くまもとゆかた祭
- 光のページェント
- 城下町くまもと銀杏祭
- 肥後のつりてまり
- 肥後のひなまつり
- 「夢未来みかん」祭り
- 水産物フェア開催事業
- 火の国YOSAKOIまつり・九州がっ祭
- 歴史を活かしたまちづくり事業
- 日本が誇る伝統的文化資源及び漫画・アニメコンテンツを活用した外国人誘致事業
- ナイトタイムエコノミー推進事業

③つなぐ

- 市内中心部放置自転車対策事業
- 辛島公園地下駐車場整備事業
- 自転車走行空間整備事業（再掲）
- 熊本駅新幹線口駅前広場交通対策事業（再掲）
- バリアフリーマスタープラン関連事業（再掲）
- 自転車活用推進事業
- 熊本城周遊バス運行事業
- 熊本城シャトルバス運行事業
- まちなかフリーパス事業
- 電停改良事業
- 駐輪環境整備事業
- グリーンスローモビリティ導入事業
- 新モビリティサービス推進事業
- 多両編成車両導入事業
- バス・電車無料の日
- シェアサイクル導入支援事業
- おでかけICカード交付事業
- EVバス運行事業
- 熊本市バス停ベンチ設置事業（再掲）
- 障がい者福祉タクシー事業

5 章 実現に向けて

- 1 実施計画
- 2 推進体制
- 3 中心市街地以外への展開

1 実施計画

本ビジョンは、ウォーカブルなまちを実現していくための目指すまちの姿と対応の方向性を示すもので、中心市街地活性化基本計画を実施計画として位置付けます。

中心市街地活性化基本計画では、毎年フォローアップ・計画変更申請・実績報告を実施し、進捗管理を行います。

本市総合計画の見直しや策定の時期に合わせて、本ビジョン及び中心市街地活性化基本計画の見直し・策定を行います。

第4期中心市街地活性化基本計画（R5.4～R10.3）				次期計画へ 見直し
基本コンセプト：昼も夜も歩いて楽しめる、いつまでも魅力的なまち				
基本方針	【基本方針1】 時代の変化に 대응するまち	【基本方針2】 にぎわいあふれる城下まち	【基本方針3】 安全・安心に住み続けることができるまち	
目標	時代の変化を見据えた魅力あるまちづくり	にぎわいの創出と回遊性の向上	安全で安心できるまちなかへの居住促進	
指標	桜町・花畑周辺地区に魅力があると 感じる市民の割合 50.9%/R3→52%/R9 熊本駅周辺が魅力的であると 感じる市民の割合 46.2%/R3→47%/R9	中心市街地の歩行者通行量 596,766人/R3→812,000人/R9 熊本市内の宿泊客数 168万人/R2→290万人/R9	中心市街地内の居住人口 37,682人/R3→37,700人/R9	
(補足) 施策展開イメージ	・中心市街地まちづくり推進事業 ・市電緑のじゅうたん敷設工事	・中心市街地まちづくり推進事業 ・主要地方道熊本高森線（唐人町通り）の道路空間美化事業 ・中心市街地建て替え促進事業 ・市電緑のじゅうたん敷設工事	・中心市街地まちづくり推進事業 ・中心市街地建て替え促進事業 ・市電緑のじゅうたん敷設工事	
	・中心市街地まちづくり推進事業 ・ほこみち利活用促進事業	・中心市街地まちづくり推進事業 ・ほこみち利活用促進事業 ・夜間景観推進事業 ・町屋利活用モデル事業	・中心市街地まちづくり推進事業 ・夜間景観推進事業 ・町屋利活用モデル事業	
	・グリーンスローモビリティ導入事業 ・熊本城周遊バス運行事業 ・多両編成車両導入事業	・グリーンスローモビリティ導入事業 ・熊本城周遊バス運行事業 ・多両編成車両導入事業	・グリーンスローモビリティ導入事業 ・多両編成車両導入事業	

熊本市中心市街地 ウォーカブルビジョン

【目指すウォーカブルなまちの姿】
多様な人々が開かれた空間で居心地よく
快適に過ごせるまち

対応の方向性

【課題】安全で快適に歩行・滞在できる空間整備が必要（ハード）

安心して快適に過ごせるまちなか

（つくる）人中心の都市空間の整備

【課題】訪れたくなるしかけづくりが必要（ソフト）

多様な過ごし方ができるまちなか

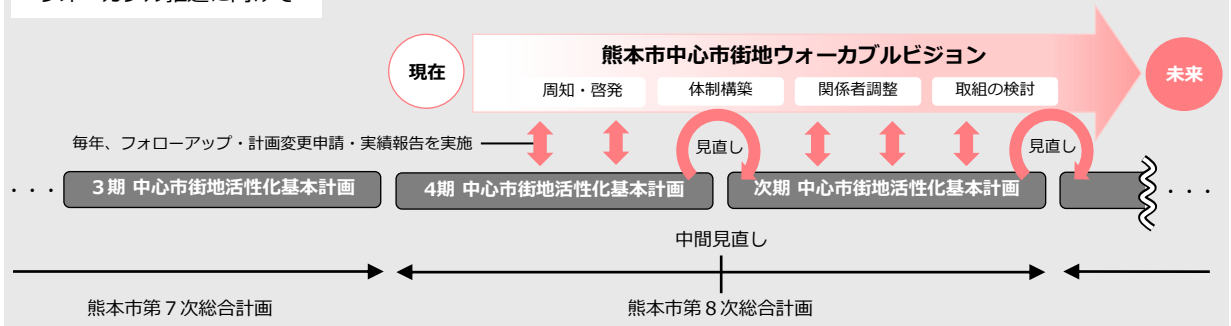
（つかう）都市空間の利活用促進

【課題】多様な選択肢のある移動環境の構築が必要（モビリティ）

快適に移動できるまちなか

（つなぐ）多様な移動手段の提供

ウォーカブル推進に向けて



2 推進体制

中心市街地活性化基本計画は、中心市街地活性化協議会と連携しながら作成・進捗管理を行っています。今後は、本ビジョンの実現に向けた意見交換の場を創出して、官民一体となって新たな取組を検討し、具体化した取組は中心市街地活性化基本計画への記載を提案し、中心市街地活性化協議会に意見を聴取したうえで、反映していきます。

また、本ビジョンの実現に向けては、市民、事業者、行政がそれぞれの得意分野を活かし、役割分担しながら連携して取り組みます。

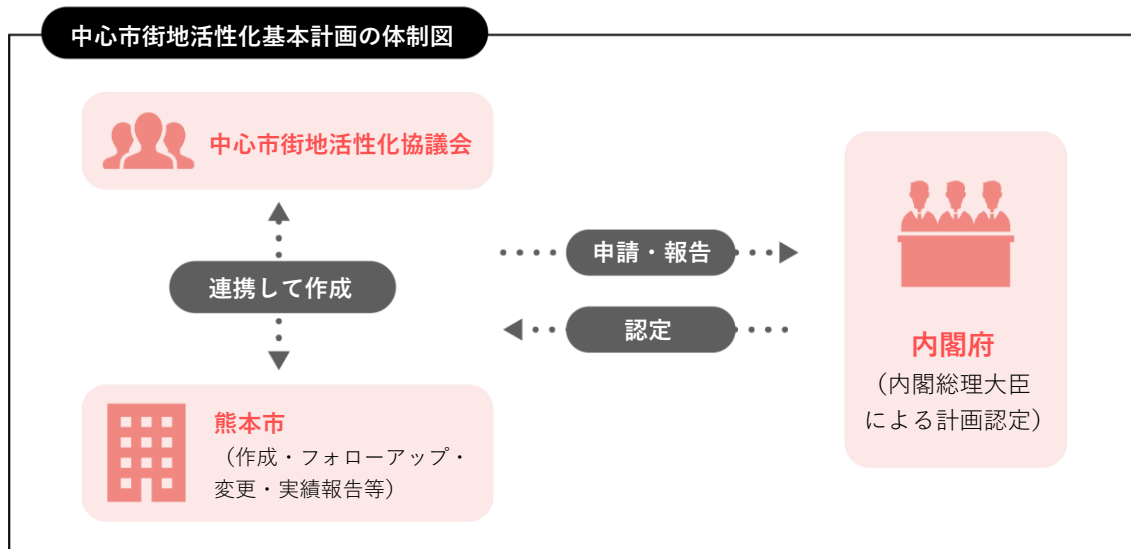
【ビジョンの推進体制】

〈ウォーカブルなまちを実現するための意見交換会〉

出席者：熊本市の関係課・民間事業者・地域団体・その他関係者

会議内容：ウォーカブルな取組を推進するための事業提案・情報提供・役割分担等

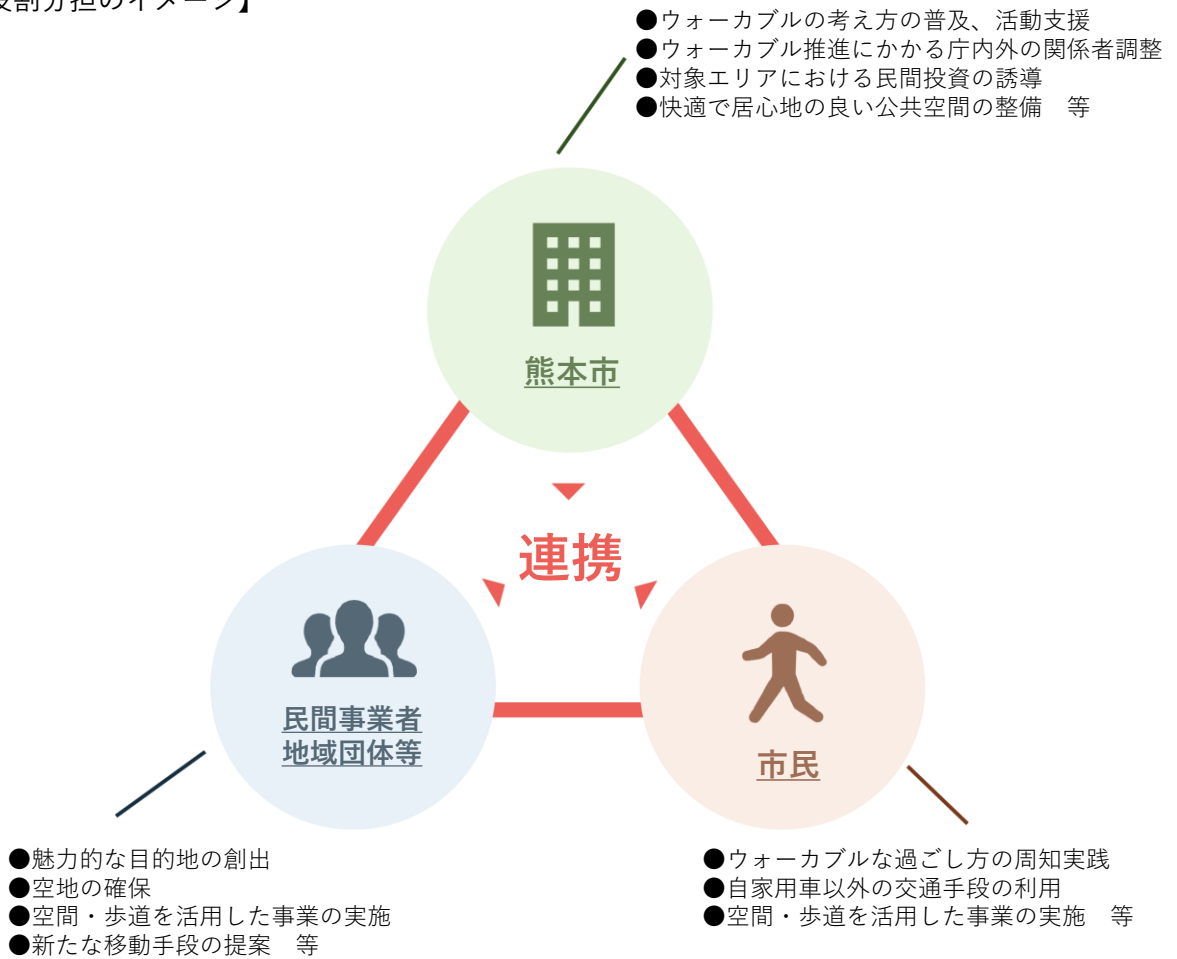
取組の検討、中心市街地活性化基本計画への記載の提案



実現へ

熊本市中心市街地ウォーカブルビジョン

【役割分担のイメージ】



3 中心市街地以外への展開

中心市街地の取組を地域拠点などにも展開するとともに、中心市街地内外のウォーカブルなまちづくりに資する取組を相互連携することで、相乗効果を図ります。例えば、中心市街地や地域拠点において、本ビジョンの周知に併せて各地域の取組を紹介するなど、地域間で連携します。

ここでは、中心市街地以外での取組の一例として、地域のまちあるきマップ等を紹介します。

【城下町散策町図】



【中央区つながるまちのわ公園ブック】

【東区まちあるきマップ】



【南区まちあるき手帖】



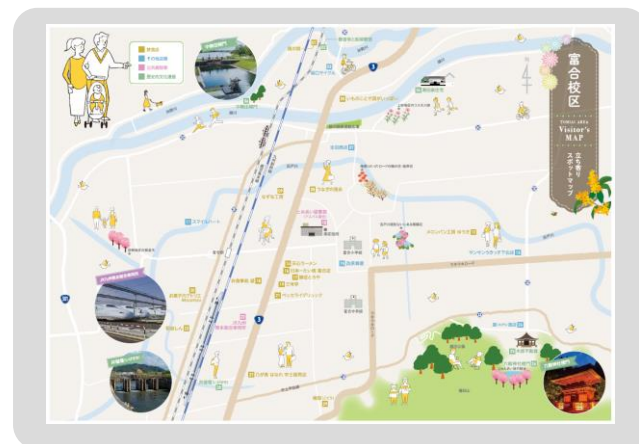
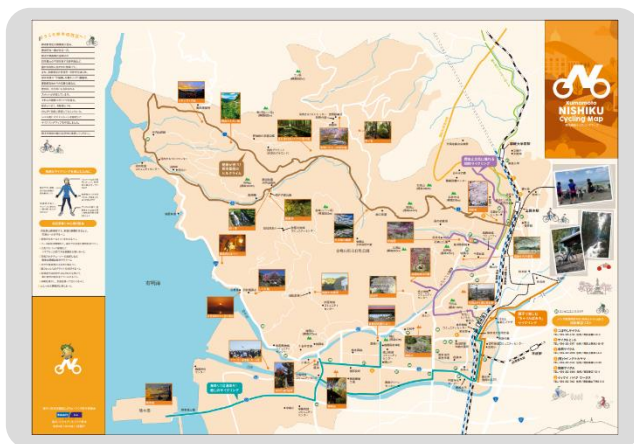
【川尻散策町図】

【城山校区、高橋校区 CHILL SPOT MAP】



【西区（サイク）リングマップ】

【富合校区立ち寄りスポットマップ】



参考資料

■ 検 討 経 緯

本ビジョンの策定にあたっては、中心市街地の各地区にお住まいの皆様や、商店街の皆様、事業者の皆様など、多くの方々からご意見をいただきました。次ページ以降に、いただいたウォークアブルなまちを実現するためのアイデアをご紹介します。

年度	月	内容
令和5年度 (2023年度)	9	景観調整会議
	11	グランドデザイン2050専任専門会議（くまもと都市戦略会議 関係組織）
	12	事業者 個別ヒアリング グランドデザイン2050専任専門会議 くまもと新城下町創生会議（中心市街地活性化協議会関係組 織）
	1	グランドデザイン2050専任専門会議
	2	広間る グループヒアリング くまもと新城下町創生会議
	3	KAB駅前フェスタ オープンハウス 一新校区 まちあるき 春日校区 個別ヒアリング 子育て応援団体 グループヒアリング、アンケート 熊本駅周辺にぎわいづくり推進協議会
令和6年度 (2024年度)	4	古町校区 グループヒアリング 五福校区 個別ヒアリング 一新校区 グループヒアリング 慶徳校区 個別ヒアリング
	5	五福校区 グループヒアリング 事業者 個別ヒアリング グランドデザイン2050専任専門会議
	6	中心市街地活性化協議会 幹事会 グランドデザイン2050専任専門会議
	8	中心市街地活性化協議会
	9	グランドデザイン2050専任専門会議 くまもと新城下町創生会議

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

通町筋・桜町周辺地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つくる

坪井川沿いの整備

- ・坪井川沿いの遊歩道を最後まで整備してほしい
- ・坪井川遊歩道の入り口を広く入りやすくすると良い
- ・人道橋を整備してほしい

歩道の整備

- ・歩道を広く、通やすくしてほしい
- ・水たまりができないように道路を整備してほしい

まちなかにおける屋外空間の整備

- ・まちなかに緑や広場を増やしてほしい
- ・SAKURAMACHI Kumamotoの屋上のような空間が増えると良い
- ・建物をひいて公開空地を生み出すことには大賛成

公衆トイレの不足

- ・きれいで安全（パブリック）なトイレがほしい

回遊性向上のための交通整備・しかけ

- ・トランジットモールを整備してほしい
- ・自転車レーンを整備してほしい
- ・フリンジ駐車を整備することで、自家用車の進入を抑制しながら歩道を拡幅していくと良いのでは
- ・白川右岸に、散歩やジョギング路、休憩スポット等を整備してほしい
- ・歩行や運動を楽しむためのサービスを提供してほしい（ジョギングやウォーキングルートの整備、ルート沿いの公共トイレや休息空間の整備）

スケボー環境の整備

- ・スケボーパークを整備してほしい

滞在空間の整備

- ・まちなか再生プロジェクトを活用して建て替えを進める際に、建物と一体的に運用できるようなコンパクトな休憩場所や緑陰の設置を誘導してはどうか
- ・建物の1階利用と連携した、歩行や滞留空間を生み出してはどうか
- ・緑陰を備えた滞留空間を整備してはどうか

集客のための導入機能

- ・アミューズメントパークやこどもと遊べる施設を整備してほしい
- ・高級宿泊施設を建設してはどうか
- ・緑陰、休憩、飲食、野外コンサート、アーバンスポーツ等施設やデジタル案内板サービスを導入してはどうか
- ・空地に体験型遊戯施設や屋内スポーツ施設、漫画家とのコラボ施設等を整備してはどうか
- ・サービス付きの高齢者向け居住施設を整備してほしい
- ・電車通りやアーケード沿いに、公共トイレや休息空間、野外アートギャラリー、ARフォトスポット、XRミュージアム等のサービスを整備してほしい

その他

- ・街路樹の安全対策を講じてほしい
- ・市民会館がある場所にアリーナを建設してほしい（+アリーナの隣に公園を併設してほしい）
- ・地下通路を建設してほしい
- ・車両を規制する区間を作ってはどうか（公共交通利用が増えてもっと便利になると思う）

つかう

交流の場所づくり

- ・若者が集まって勉強や意見交換ができる場所を作してほしい
- ・まちなか図書館がほしい

ベンチの整備

- ・歩行ルートに休憩できるベンチ等の座れる場所がほしい
- ・樹木やベンチがあると良い

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

通町筋・桜町周辺地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つかう

店舗の活性化

- ・場所や通りの雰囲気や特性にあったまちづくりをする
- ・夜の顔である、飲み歩きができる場を発信してはどうか
- ・魅力あるお店が連なる空間が生まれていくと良い

歩道の整備

- ・景観を良くするため、歩道の舗装を統一してはどうか

まちの魅力発信

- ・推しスポット等を対面で教えてくれるまちなか案内所や案内人を提供してほしい
- ・人を集めるための情報発信をしてはどうか

広場・公園の使い方

- ・広場やオープンスペースを活用したい
- ・辛島公園と花畑広場を一体化して使えるようになると良い
- ・花畑広場の使用者を増やすため、イベント時の使用料を安く（減額）してはどうか
- ・花畑広場でのビールイベントをやってほしい
- ・花博やその他イベント、多様な使い方により、もっとにぎわってほしい
- ・白川公園をPark-PFIで立体都市公園として整備してほしい（上は公園、下は次世代カルチャーの発信拠点に）

娯楽・イベント

- ・音楽フェスや体験型イベントを開催してほしい
- ・回遊性向上のため、遊べたり体験できるスポットがあると良い
- ・市民会館前の取組を継続してほしい

まちのにぎわい活性化

- ・歩行者利便増進道路（ほこみち）制度を活用することで、アーケードや花畑広場周辺などの歩行者空間に滞在、消費の場を創出してはどうか

回遊性向上のためのしかけ

- ・主要通りにストーリー性を創出させる（アーケード、横丁、裏通りでの空間演出やランドマークの設置等）
- ・エリア内外を結ぶ、まち歩きを楽しめる行動範囲を拡張するサービスや施設を整備してはどうか

アーケードの活性化

- ・アーケード近くに、観光バスの乗降場や手荷物預かり所、コインロッカーを設置してほしい

その他

- ・共同荷捌き施設を整備してほしい

つなぐ

回遊性向上のための交通整備

- ・タクシー乗り場を整備してほしい
- ・上通や下通の細街路でのフリンジ駐車場を整備してはどうか
- ・回遊の楽しさを広げるため、低速移動サービスを提供してはどうか（チャリチャリや電動キックボード、グリーンスローモビリティ）
- ・大水害時の動線確保のため、桜町や花畑町周辺の建物を公共デッキ等で接続し、路面交通に遮られない移動を可能にしてはどうか

新しいモビリティの活用

- ・グリーンスローモビリティを活用する
- ・アーケード内で稼働可能な、人やモノを運ぶ小規模運搬ツールを提供してほしい
- ・小型モビリティサービスを拡充してほしい
- ・モノレールを設置してほしい
- ・地下鉄を運行してほしい
- ・車と共存しながら、多様な「移動」を楽しむ

駐車場の不足

- ・交通問題を減らすため、大きな駐車場を整備してはどうか
- ・インフラと周辺の駐車場を整備してほしい

その他

- ・「公共交通無料の日」を継続&定着化してほしい

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

熊本城地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つくる

アクセス向上のための整備

- ・周辺市街地と二の丸広場、三の丸広場を結ぶアクセスルート（便利な回遊路）を改善・増設してはどうか
- ・熊本市博物館に至るまでの横断歩道に信号機を設置してほしい

歩いて楽しめるしかけ

- ・熊本城域の外周にジョギングコースを整備してほしい

案内板の設置

- ・熊本城⇄熊本駅に、わかりやすく統一された案内板を作してほしい
- ・海外観光客にも対応した電光掲示板や看板を設置すると良いのでは
- ・『どこからどこまで〇〇m』といった、目的地（熊本城等）までのルートを示した看板などを立てて周知すると良い
- ・個々の場所にまつわる歴史や物語を紹介する案内板やスマホARを作ってはどうか

つかう

集客のためのしかけ

- ・甲冑を着て熊本城内を散策したり、殿様気分を体験できるプログラムを提供してほしい
- ・熊本城を訪れた観光客がまちなかで消費する仕組みを導入してはどうか
- ・坪井川に屋形船を浮かべたり、川辺に屋台を設置してほしい

観光客へのアプローチ

- ・本丸の空間的迫力（非日常性）を活かした小イベントで、来訪者に情報を全国発信してもらうしかけづくりをしてはどうか
- ・訪れた場所の昔の風景が見えるような、アプリを作ってはどうか（季節ごとに違いがあると楽しめそう）

熊本城・城下町としてのイメージを落とし込む

- ・熊本城のイメージや白と黒を基調としたブランドカラーを、まちの中に落とし込む
- ・城下町感を演出する

観光資源の活用

- ・内堀である坪井川の空間を活用したい（散策や水遊び、観光利用）
- ・商店街のクーポンサービスとの連携やデジタルスタンプラリーを実施してはどうか

桜町のにぎわい活性化

- ・城彩苑に集まった人をまちなかにおろすしかけが必要である
- ・熊本城とまちなかの接続を強めたい（集客力をまちなかにも波及させたい）

その他

- ・河川敷の除草清掃活動が必須である

つなぐ

新しいモビリティの設置

- ・熊本城付近から熊本駅への水上タクシーがあれば楽しい
- ・熊本城⇄アーケードにて、グリーンスローモビリティを運行してほしい
- ・熊本城内と市街地をつなぐ移動サービスを提供してほしい（自転車や電動キックボード、人力車、グリーンスローモビリティ等）

回遊性の向上

- ・熊本城→桜町→熊本駅までの流れを作りたい

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

新町・古町地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つくる

歩道・車道の整備

- ・安全に歩ける道にしてほしい
- ・安全に歩行するために歩道は無電柱化してほしい
- ・電車通りの横断歩道部分のレールを整備してほしい（ゴム等でカバーし、ベビーカーなどの車輪が引っかからないようにフラットにしてほしい）
- ・新町・古町⇄熊本駅の高架橋付近に遊歩道を整備してほしい
- ・照明灯を整備してほしい
- ・車の進入を抑制することで、道路内に安心安全な歩行者空間を生み出したり、立ち話の場を確保したりするのはどうか
- ・交通規制などで自動車交通量を軽減し、歩道を拡幅してはどうか

滞在空間の整備

- ・緑陰を備えた滞留空間を整備してほしい
- ・古町地区を魅力的な出会いの場として整備してはどうか

回遊性向上のための交通整備

- ・新町から熊本駅までのアクセスルートがほしい
- ・誰もが利用できるランニングルートを整備してほしい
- ・バス専用道を整備してほしい
- ・自転車レーンを整備してほしい
- ・トランジットモールを整備してほしい
- ・白川右岸に、散歩やジョギング路、休憩スポット等を整備してほしい
- ・散歩路に沿って休憩場所を配置してはどうか

案内板の設置

- ・案内看板を整備してほしい（目的地までのルートを示した看板などを立てて周知すると良い）

歩行者天国化

- ・新町交差点を歩行者天国にしてはどうか

藤崎台のクスノキ群へのアクセス向上

- ・藤崎台のクスノキ群周辺を整備して訪れやすくしてほしい（＋案内板を設置してほしい）

その他

- ・公衆トイレを改修してほしい

つかう

観光客へのアプローチ

- ・「夜歩いて楽しくなるようなしかけ」としてのライトアップをしてはどうか
- ・SNSで投稿したくなるようなデザインのまちとする必要がある
- ・来街者を呼び込むためのしかけづくりが必要である
- ・散策するための、観光、休憩、トイレ等のスポットがわかるアプリを作ってはどうか
- ・おすすめポイント（写真スポット入り）マップを作成してはどうか
- ・食べ歩きができる、カフェのあるまちになると良いのでは
- ・スマートフォンを活用したARガイドやデジタルマップを作ってはどうか
- ・まちなか案内人による体験型コンテンツを提供してはどうか
- ・訪れた場所の昔の風景が見えるような、アプリを作ってはどうか
- ・歩道のタイルの一部をQRコードにして、携帯をかざすとその場所の昔の写真が見れるようにしてはどうか

城下町としてのイメージを落とし込む

- ・城下町として「和」をブランディングされていくべき
- ・城下町感を演出する
- ・城下町を感じる風情あるまちにしたい

空地の活用

- ・空地や低利用の平面駐車場を活用する（あそび場や災害時の避難場所、地元交流イベントの場等）

観光資源の活用

- ・洗馬橋からの熊本城の眺めがすばらしい

交流の場所づくり

- ・コミュニティセンターや公園のような地域住民の集いの場所（住民が自由に使える場所、こどもが遊べる場所）をつくり、拠点とする
- ・公園に大きな遊具がほしい

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

新町・古町地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つかう

歴史の活用

- ・まちの歴史や生活文化に触れる五感散歩路を設定し、現地での学びを深める情報サービスを整えてはどうか
- ・通りごとの町並みの演出や景観のルール化をしてはどうか
- ・隠れ名店群を紹介しブランド化する
- ・町屋ホテル（分散型ホテル）を導入してはどうか

イベントに関して

- ・ストラックアウト大会やえんま祭り等のイベントを実施する
- ・地元住民が新町の歴史を広めるための活動や取組を行う

町屋の活用

- ・マドカイを有効活用したい
- ・古民家や空き家となっている町屋を利活用したい

その他

- ・マンションの1階部分が店舗になると良い
- ・歩道上のごみが、歩行者や車椅子利用者の妨げになっているため、ゴミステーションを設置してほしい
- ・共同荷捌きスペースを確保してほしい
- ・北岡自然公園はもっと開かれた場所にしたい方が良い

つなぐ

駐車場の整備活用

- ・民間駐車場の相互利用をしてはどうか

交通機関の改善

- ・新町にJRの駅をつくり電車を通してほしい
- ・呉服町電停を拡張してほしい

新しいモビリティの設置

- ・低速移動サービスを提供してほしい（チャリチャリや電動キックボード、グリーンスローモビリティ等）

自転車に関して

- ・まちなかの駐輪場を整備してほしい（チャリチャリポートと同じ数の駐輪場を設置してほしい）
- ・シェアサイクルの利用環境を整えることで、行動範囲の拡大を助けてはどうか（ポート拡充や走行レーンの整備等）

その他

- ・交通量に見合ったグリーンスローモビリティを運行してほしい
- ・信号に引っかからないルートを整備してほしい

その他

まちづくりに対しての意見

- ・居住者にとって、居心地の良い閑静なまちを目指す
- ・地元住民及び来街者が歩いて楽しいまちづくりが大事
- ・観光目線のまちづくりではなく、安心安全で福祉も充実した、住民が暮らしやすいまちにしたい
- ・昔のまち（昔の建物）、今のまち（新しい建物）、様々な時代のを複合したまちが良い
- ・昔風にせず、最先端のデザインを入れるべき

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

熊本駅周辺地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つくる

遊歩道の整備

- ・熊本駅から花岡山まで遊歩道を整備してほしい
- ・河川と道路の間に遊歩道をつくってほしい
- ・花岡山公園へのトレッキング路を整備してほしい

スポーツ施設の整備

- ・アーバンスポーツ場やアリーナ、野球場、スケボー専用広場がほしい
- ・白川河川敷を、身近に利用できるスポーツやレクリエーションの場として整備してほしい

白川沿いの整備

- ・熊本駅前広場周辺⇄白川橋に、歩行者や自転車のための安全で快適な移動ルートを整備してほしい
- ・白川右岸に、散歩やジョギング路、休憩スポット等を整備してほしい
- ・白川ちやりんぼみちはもっと広く、通やすく、自転車と歩行者を分けて整備してほしい
- ・白川ちやりんぼみちに照明灯を設置してほしい

案内板の設置

- ・熊本駅からまちなかまでのルートに、海外観光客にも対応した看板等を設置してほしい
- ・「歩く、つなげる」をコンセプトに、熊本城まで切れることなく行ける案内板を作してほしい

その他

- ・道をきちんと整備してほしい
- ・春日橋と三嬌橋の間に歩行者用の橋があると良い
- ・緑が多いと癒されるので、緑を増やしてほしい
- ・熊本駅前広場の植栽位置を整理してほしい
- ・休憩できる公園がほしい
- ・展示ホールがほしい
- ・森都心プラザビル周辺の戸外空間を再整備してほしい
- ・二本木地区への歩行環境や回遊路を整備してほしい
- ・熊本駅前広場周辺建物と白川橋間のペDESTリアンデッキを整備してほしい
- ・熊本駅の外周にジョギングコースを整備してほしい

つかう

子ども・若者のあそび場

- ・子どもや若者のあそび場がほしい
- ・中高生や若者がもっと楽しめる施設や集まれるような空間がほしい（大きな公園や広場、熊本駅前広場と同等サイズの緑地帯、アート、カラオケ等）
- ・学生のチャレンジ企画として屋台を出すのはどうか

熊本駅から桜町の道の魅力向上

- ・熊本駅周辺から桜町方面へ魅力的なお店やきれいな道が面的に広がっていくと良い

商店街との連携

- ・商店街でのウォークラリー等を実施して特典がもらえるようにしてはどうか

坪井川の活用

- ・フランスのように川と親しむ環境になると良い
- ・坪井川に屋形船を浮かべたい
- ・坪井川をきれいに整備できないか
- ・お店や休憩所を作ってはどうか

学術エリアとしての提案

- ・子ども図書館、教育図書館、世界図書館といった、教育に特化した世界の教育がわかる図書館を作してほしい

森都心の活用

- ・森都心プラザビル横の交流広場をもっときれいにしてほしい
- ・森都心プラザビル広場を活用して若者の発表の場にしてはどうか

花岡山の利用促進

- ・花岡山は中心市街地を見渡す優れた眺望場所としてほしい
- ・花岡山のすばらしい眺望を活かしたい
- ・健脚づくりのために花岡山を利用したい

■ 市民の皆様からいただいたアイデア一覧（参考）

熊本駅周辺地区

※市民の皆様からのご意見を一部抜粋し掲載しております。

つかう

ベンチの整備・たまり場の整備

- ・熊本駅前広場に屋根付きのベンチがほしい
- ・白川河川敷に芝生やベンチ、水飲み場を設置してほしい
- ・ゆっくり座れて寝そべられるベンチがほしい
- ・芝生や待ち合わせ場所、街角囲碁将棋テーブルを設置してほしい
- ・居住者や勤務者が落ち着いて利用できるコンパクトな居場所やたまり場を作ってはどうか

イベントに関して

- ・大きなイベントスペースがほしい
- ・季節や時間帯に応じた建物群や広場の空間演出やイベントを開催してほしい
- ・熊本駅や周辺建物の季節装飾、プロジェクションマッピング、XRアートイベントを実施してほしい
- ・熊本駅前広場のイベントスペースを地元生活者が平日でも使えるようにしてはどうか
- ・カフェイベントや花火イベント、スポーツイベント、イルミネーションイベント等を開催してほしい

人の動きを促すしかけ

- ・位置情報を活用したアプリと名所などを連携してはどうか
- ・くまもとアプリと連携してはどうか
- ・ARなど、スマートフォンアプリによる遊歩道の案内整備を実施してはどうか
- ・スタンプラリーやランチクーポン配布により電車等の通勤利用を促進してはどうか

屋台・キッチンカー等の屋外飲食

- ・屋外飲食スペースや屋台がほしい
- ・キッチンカーが並ぶと楽しいのではないか

その他

- ・河川敷や河川敷周辺を活用したい（バーベキュー広場やビアガーデン）
- ・白川橋や、熊本駅前⇄石塘、熊本駅⇄白川をライトアップしてはどうか
- ・熊本駅西口がさみしいため、にぎわってほしい
- ・高架下空間を生活空間や歩行者路として活用してはどうか
- ・屋台村や二次会ができるカラオケ等の夜を楽しむ大人の居場所を整備してほしい

つなぐ

交通機関の整備・改善に関して

- ・快適に移動するために、熊本市電⇄JRのアクセスをもっと良くしてほしい
- ・各交通機関の乗降位置を改善してほしい
- ・熊本駅西側でグリーンスローモビリティを運行してはどうか
- ・熊本駅から新町・古町や桜町方面へ行きたくなるように、アクセスを向上してはどうか（自転車レーンを整備したり、熊本市電を無料にする等）
- ・モビリティハブとしての機能を強化する（JR、バス、熊本市電、自転車、チャリチャリの配置を工夫し、乗り場案内をわかりやすくする）

駅前からのアクセス向上

- ・熊本駅から万日山方面へのアクセスを向上してほしい（バスの本数が少ない）

自転車モビリティの整備

- ・チャリチャリなどで郊外から中心部までをつないでほしい

その他

ウォーカブルなまちづくりに対する意見

- ・熊本駅周辺は県外の人々が最初に来る場所であるため、まちなかにないらしさ、まちなかとの差別化が重要であるとする